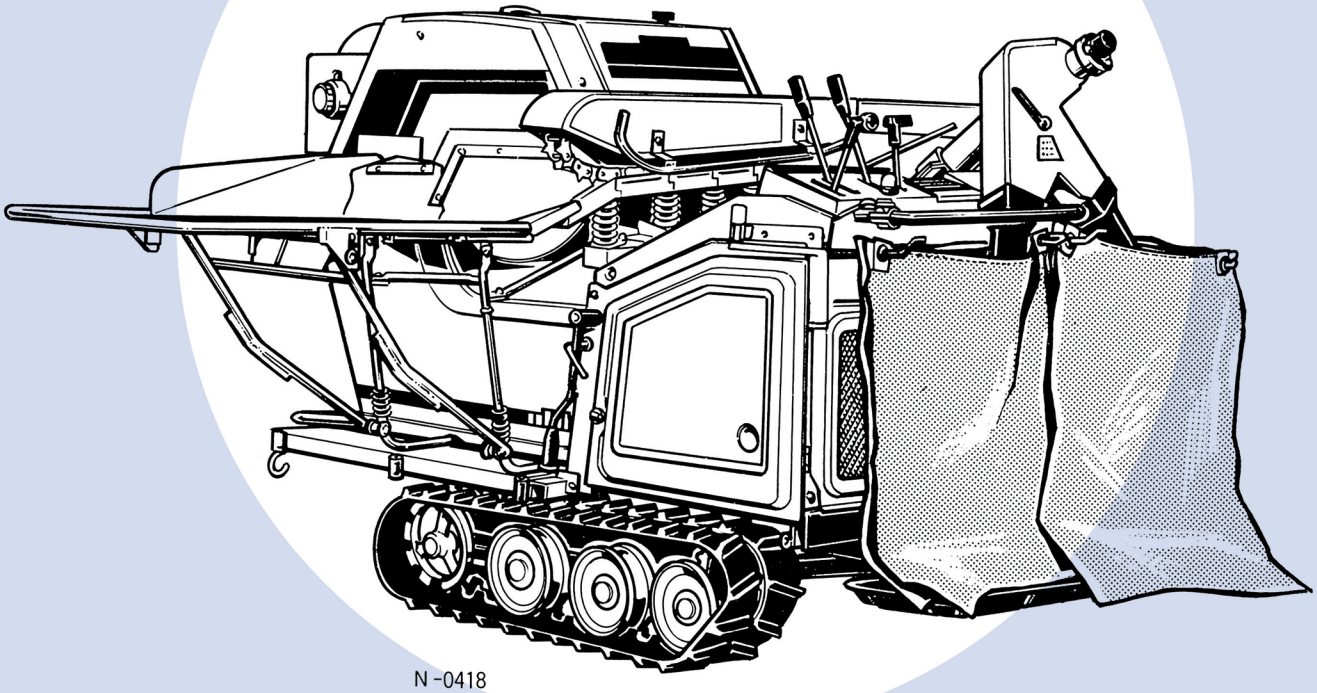
ハーベスタ

RH

400(Z)・650(Z)
500(Z)・750(Z)
450(Z)・950(Z)



N-0418

ご使用前に必ずお読みください

取扱説明書

安全に作業をするために

安全に作業をしていただくために，次のことを守ってください。

1．はじめに

まず，「取扱説明書」と「納入品安全説明書」，「安全注意ポスタ」，「安全五憲章」を読むことからお始めください。これが，安全作業への一番の近道です。

2．エンジンの始動

(1)各クラッチが切ってあるか確認しましょう。
(2)室内では排気ガスが空気を汚してガス中毒を起す危険があります。窓や戸を開けて換気は充分に。
(3)まわりをよく見わたして，「これから動きますよ！」と一言合図しましょう。

3．作業中

(1)理由のいかんにかかわらず，回転部分に手出しは無用です。絶対にいけません。チビッコ達には，特に要注意です。
(2)二人以上で共同作業をするときは，互いに合図をし合いましょう。
(3)カッタに排ワラが詰まったときは，面倒でも，エンジンを必ず止めてから，ワラを除いてください。
(4)作業中は，御使用になる方はもちろん，まわりの人や家畜などにも，排気ガスに充分注意してください。

4．積込み，積降ろし

(1)場所は平たんで安全なところを選びましょう。
(2)すべり止めをした丈夫なアユミ板をしっかりと渡して，ゆっくり移動させましょう。移動途中でのサイドクラッチの操作は厳禁。

5．走行(道路走行)

(1)道路走行時は，もみ受け台を必ず折りたたんでください。また，危険ですから絶対に上に乗らないでください。
(2)高速走行時，サイドクラッチレバーを強く引きすぎると急旋回して危険です。旋回が必要なときは，低速で行なってください。

6．ハーベスタ⇄運搬車への切換え〔運搬車仕様のみ〕

(1)脱こく機の積降ろしは，平たんで安全な場所で行ないましょう。
(2)脱こく機，及び各部の着脱は，エンジンを必ず止めてから行ないましょう。

7．その他

(1)作業者の服装
脱こく作業をするときは，機械の回転部分に巻き込まれやすい服装はやめて，キチンとした服装をしましょう。
(2)掃除，点検，整備(調整)をするときは，まず，平たんで広い場所にハーベスタを止め，エンジンを止めてから，次に各クラッチも切ってあるか確認してから開始です。
(3)機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し，あらかじめ「取扱説明書」と「納入品安全説明書」，「安全注意ポスタ」，「安全五憲章」を読むように指導してください。

■以上ハーベスタの取扱いで起りがちなあやまちを未然に防いでいただくために，主だった注意事項を記載しました。これ以外にも本文の中で安全ポイント をそのつど，取上げております。必ず守ってください。

56341-6131-5(カラー)

はじめに

このたびは本製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

よくお読みいただいたうえ，いつまでもすぐれた性能を発揮できるよう本書を充分にいかして，末長く御活用ください。

なお，本製品については新しい技術を，そのつど製品に取り入れ改良しておりますので，お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので，あらかじめ御了承ください。

また安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した 納入品安全説明書 を別冊にして添付しておりますので，合せて御活用ください。

また，この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので，お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ，おまちがえのないようお願いいたします。

- 大きさ別によって……「RH400仕様」「RH500仕様」
  「RH450仕様」「RH650仕様」「RH750仕様」「RH950仕様」
- 始動方式によって……「リコイル仕様」「クランクハンドル仕様」「セル仕様」
- 派生形式によって……「運搬車仕様なし」
  「運搬車仕様付」(RH400-D
  RH500-D，RH500-DW，RH500-DS
  RH450-D，RH450-DW，RH450-DS
  RH650-D，RH650-DS
  RH750-D，RH750-DS
  RH950-DS)

※本文中に使用しているイラストは,主にRH750仕様を掲載しております。

※本文中は，全農向けの記号(Z)は省略しております。

目次

サービスと保証について……1

各部の名称……2

運転前の点検……3

上手な運転のしかた……6

空冷エンジンの始動と停止
【RH400・500仕様】……6
ディーゼルエンジンの始動と停止
【RH450・650・750・950仕様】……9
路上走行について……12
自動車への積降ろし，運搬……14

上手な作業のしかた……15

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態……15
作物の条件……15
ほ場の条件……15
ほ場への乗入れ・あぜ越え……16
作業に適した機械の方向……16
作業前の各部の準備……17
ハーベスタ作業のしかた……19
脱こくの操作のしかた……20
作業に適した調節のしかた……23

不調時の点検と処置……25

各部の調整……28

エンジンオイルの点検・交換……28
ミッションオイルの点検・交換……29
燃料フィルタの点検・清掃……30
エアークリーナの点検・清掃……30
点火プラグの点検・調整【RH400・500仕様】……31
燃料パイプの点検……32
ラジエータの点検【RH450・650・750・950仕様】……32
警笛が鳴った場合【RH450・650・750・950仕様】……34
バッテリの取扱いと保守……34
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換……35
電気配線の点検，ヒューズの交換……36
ワイヤの調節……37
各部ベルトの張り調整……38
チェーンの調整……41
クローラの点検・調整……42
ワラ切刃の交換……43
機内の掃除のしかた……43
長期格納のしかた……44

ハーベスタ⇄運搬車への切換え〔運搬車仕様付〕……46

脱こく機の降ろしかた……46
脱こく機の積みかた……47
荷台枠の取付け……49
運搬作業……49

付　表……50

主要諸元……50
別途購入アタッチメント一覧表……53
クボタ純オイル……53
ラットガード……54
配線図……55
主な消耗部品一覧表【RH950仕様】……57

サービスと保証について

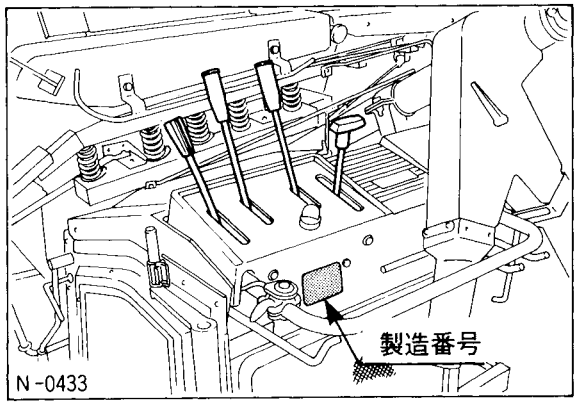
この製品には，保証書が添付してあります。
詳しくは保証書を御覧ください。
なお，御使用中の故障や御不審な点及びサービスに関する御用命は，お買い上げいただいた販売店・農協又は当社内燃機器支店にそれぞれ「御相談窓口」を設けておりますのでお気軽に御相談ください。
その際　(1)本機名称と製造番号
　　(2)エンジン名称とエンジン番号
　　(3)部品御注文の際は，
　　部品名称とコードNo.
　　（純正部品表参照
　　RH950仕様はディーラ用参照）
を合せて御連絡ください。

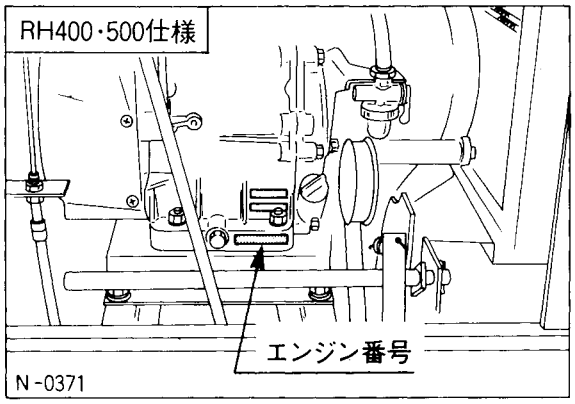
注意

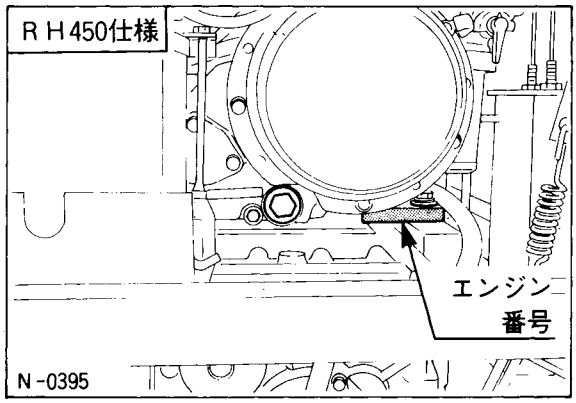
- **構造変更，使用目的が異なる場合は，保証の対象外になるので御注意ください。**
  （詳細は保証書を御覧ください）

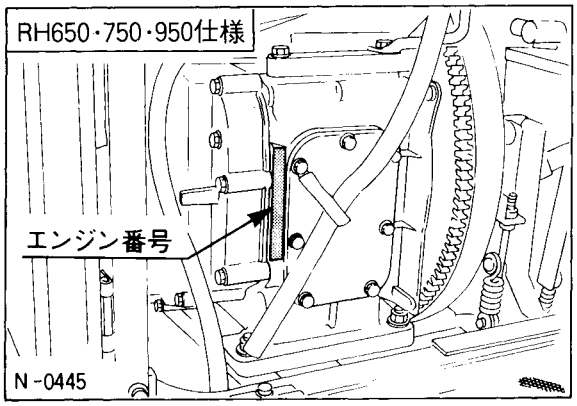
◆安全鑑定番号

クボタRH400 ……917001
クボタRH500 ……917002
クボタRH450 ……917008
クボタRH650 ……917009
クボタRH750 ……917010
クボタRH950 ……1217004

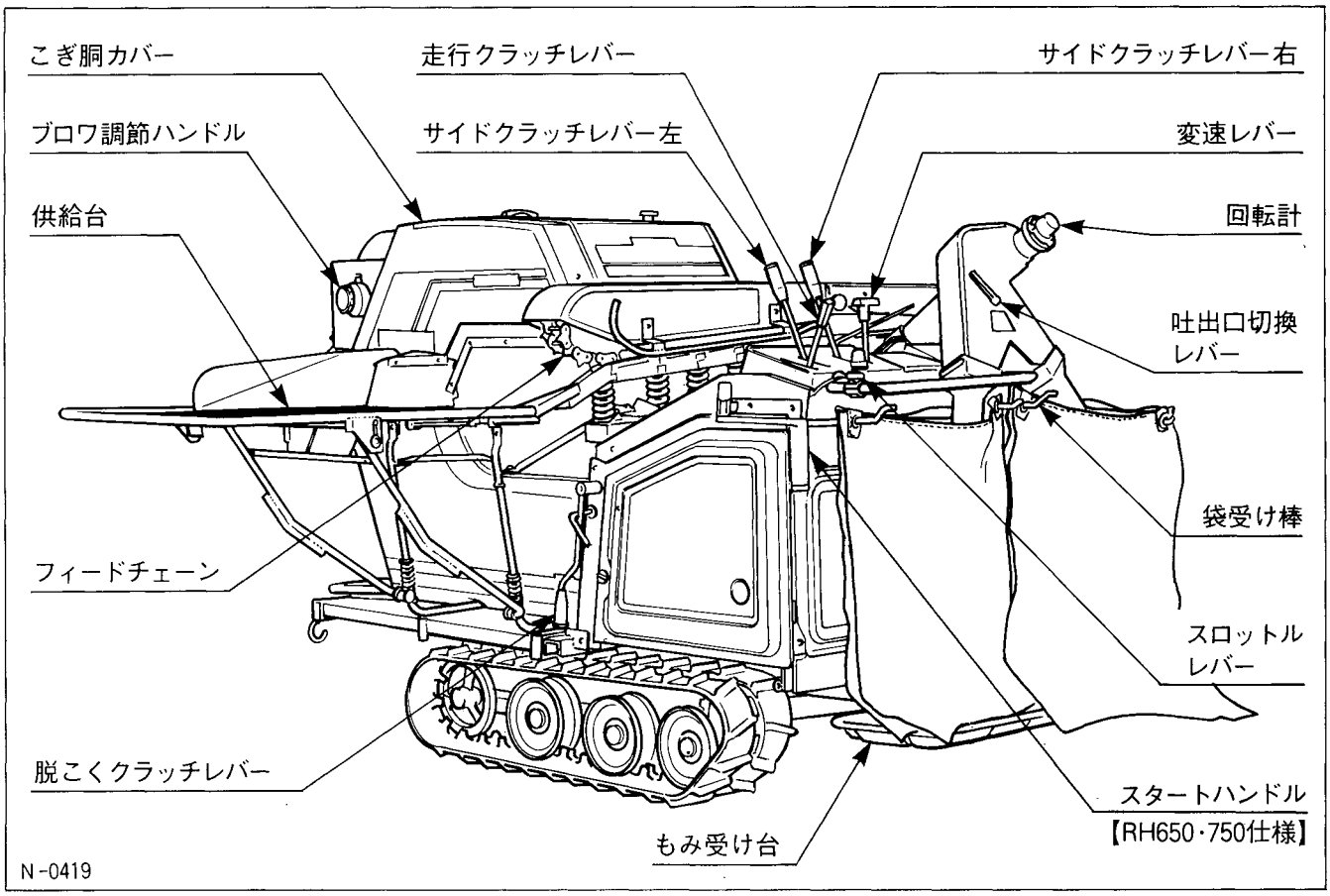


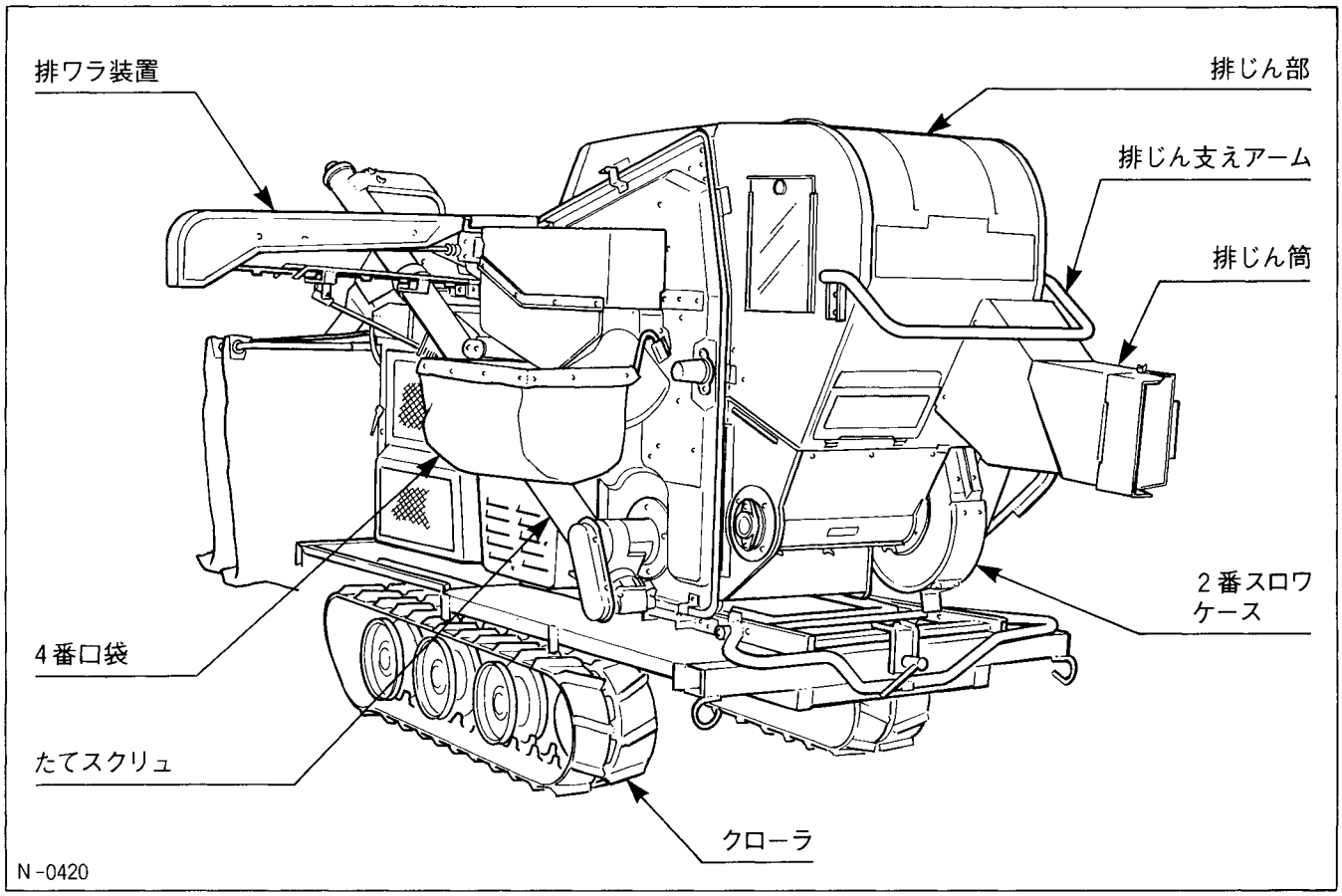






各部の名称


こぎ胴カバー
走行クラッチレバー
サイドクラッチレバー右
ブロワ調節ハンドル
サイドクラッチレバー左
変速レバー
供給台
回転計
吐出口切換
レバー
袋受け棒
フィードチェーン
スロットル
レバー
脱こくクラッチレバー
スタートハンドル
【RH650・750仕様】
もみ受け台
N-0419


排ワラ装置
排じん部
排じん支えアーム
排じん筒
2番スロワ
ケース
4番口袋
たてスクリュ
クローラ
N-0420

運転前の点検

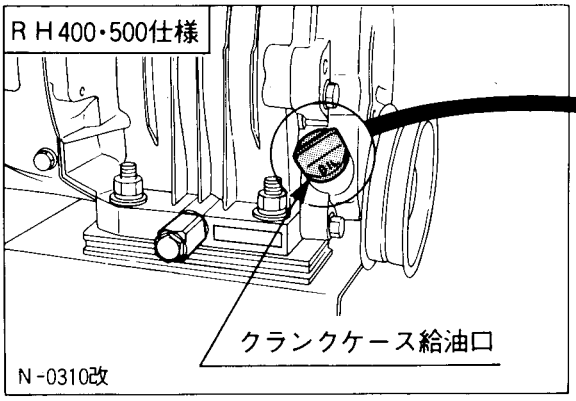
安全ホイント

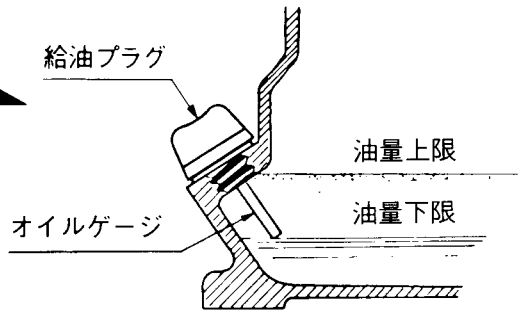
(1)火気厳禁!!
(2)エンジンは，必ず停止してから行なってください。
(3)使用前には必ずオイル，燃料を規定量，給油してください。
(4)燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
(5)運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。【RH450・650・750・950仕様】
(6)エンジン，マフラ，脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。

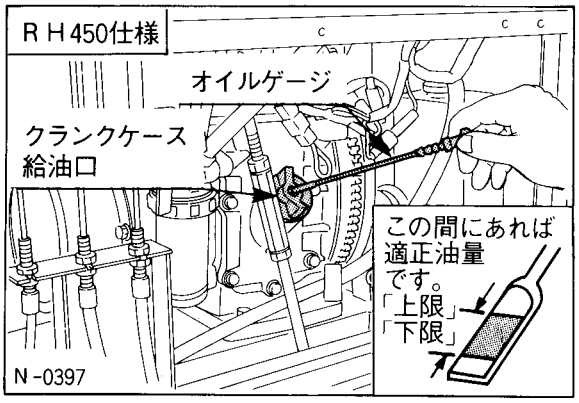
給油

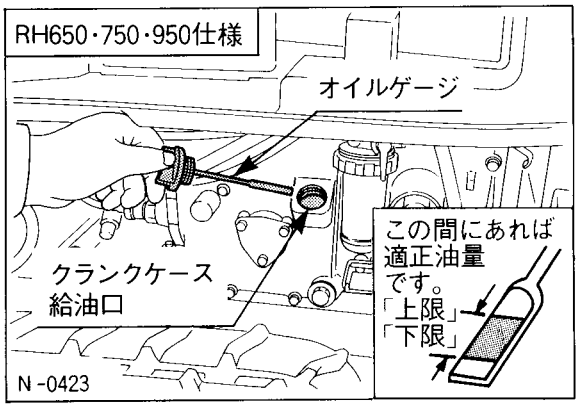
★エンジンクランクケースオイル

オイルゲージで点検し，適正油量まで補給してください。









注意

● クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
気温に応じて下表の通り使い分けをしてください。

オイルの種類

【RH400・500仕様】
クボタ純オイルG30(ガソリン,灯油エンジン用)
【RH450・650・750・950仕様】
クボタ純オイルD10W30(ディーゼルエンジン用)

外気温	粘度ナンバ
5℃以下	SAE #10W又は10W—30
5℃～20℃	SAE #20 又は10W—30
20℃以上	SAE #30 又は10W—30

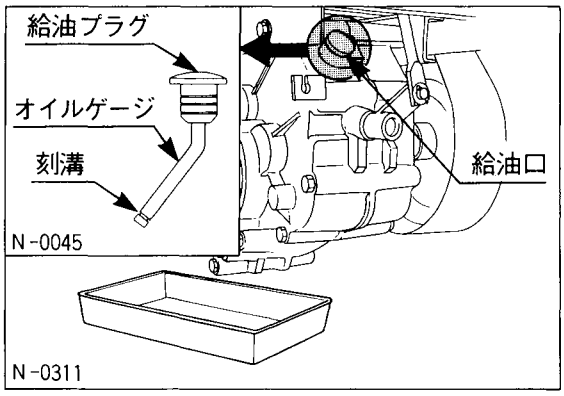
10W－30はオールシーズン用です。

給油

★トランスミッションケースオイル

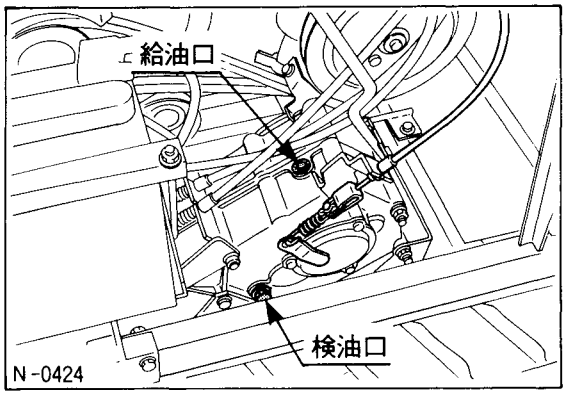
【RH400・500・450仕様】

ゲージ刻溝より少ない場合，刻溝まで補給してください。



【RH650・750・950仕様】

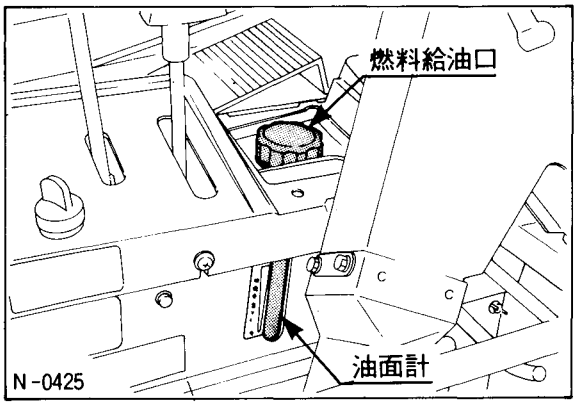
オイルが少ない場合，検油口からオイルがあふれる程度まで補給してください。



オイルの種類

クボタ純オイルM90(ミッション用)

★燃料の補給



燃料の種類

【RH400・500仕様】

自動車用レギュラガソリン(無鉛)

【RH450・650・750・950仕様】

燃料はクボタディーゼル重油をお使いください。クボタディーゼル重油の入手が困難な場合はディーゼル軽油をお使いください。

クボタディーゼル重油は**共同石油，コスモ石油，日本石油，昭和シェル石油**の4社で販売しております。

注意

(1)油面計を見ながら入れ，こぼさないこと。
(火災の原因になります)

(2)こぼした燃料がトレーなどにたまったときは，必ずウエスで拭きとってください。

満たん容量

7.0ℓ

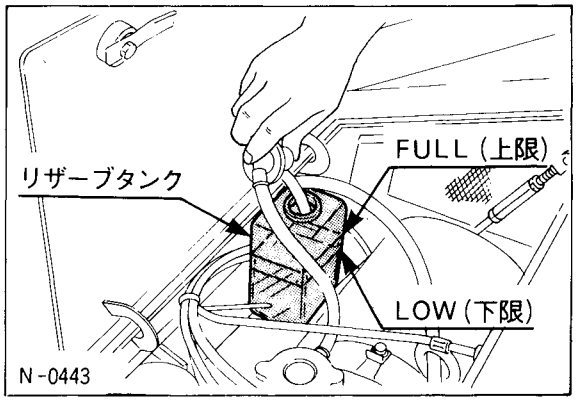
給水 RH450・650・750・950仕様

★冷却水の補給(リザーブタンク)

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

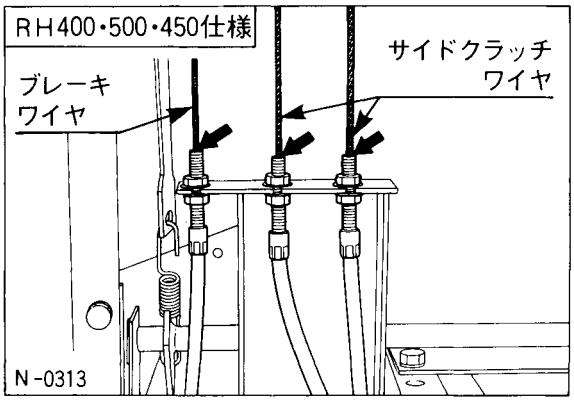
通常は補給の必要はありませんがリザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，LOWとFULLのレベルの間まで補給が必要です。

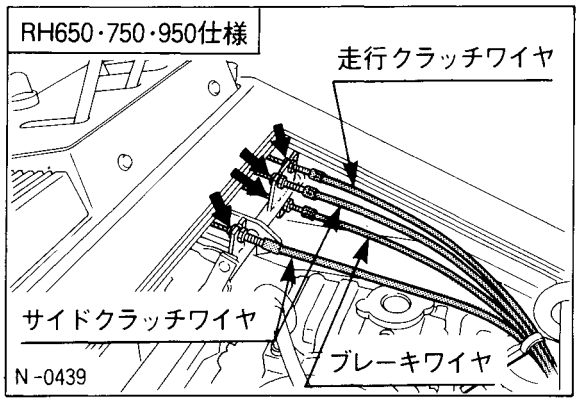
FULL以上は入れないでください。



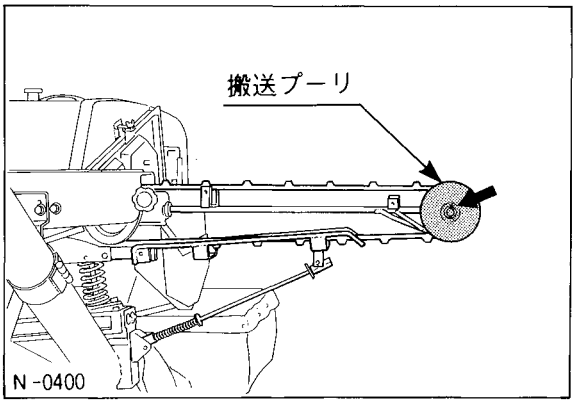
注油

●ワイヤ関係

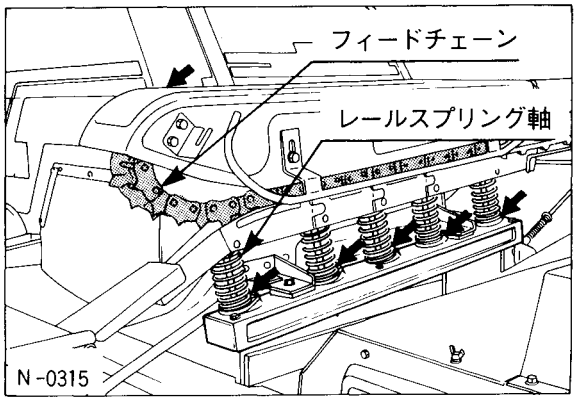




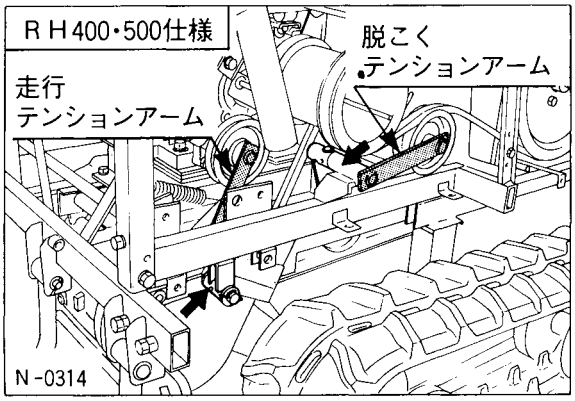
●排ワラプーリ関係

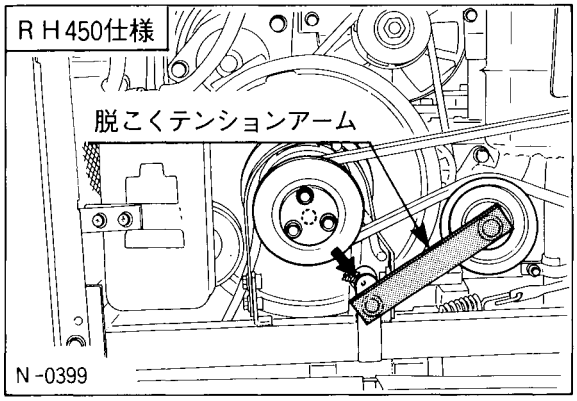


●チェーンレール関係



●テンションアーム関係





上手な運転のしかた

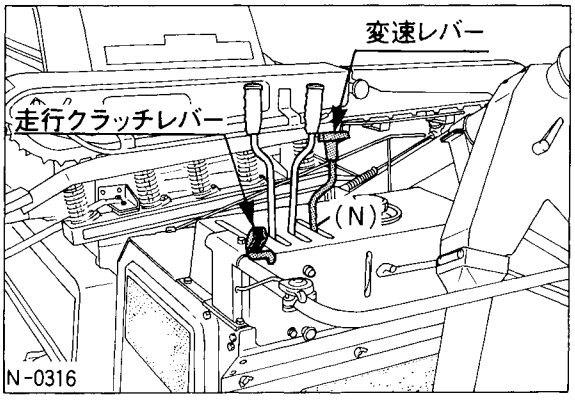
安全ポイント

(1)各クラッチレバーを「切」にしてから始動してください。
(2)周囲の人に始動の合図をしてから始動してください。
(3)スタートハンドルを回す方向，及びリコイルを引張る方向に人がいないか，突起物，障害物がないかを確かめてから始動してください。
(4)運転中は必ずジェットスタートコックを締めておいてください。コックをあけていますと，運転中燃料を吸込むおそれがあります。【RH450・650・750・950仕様】

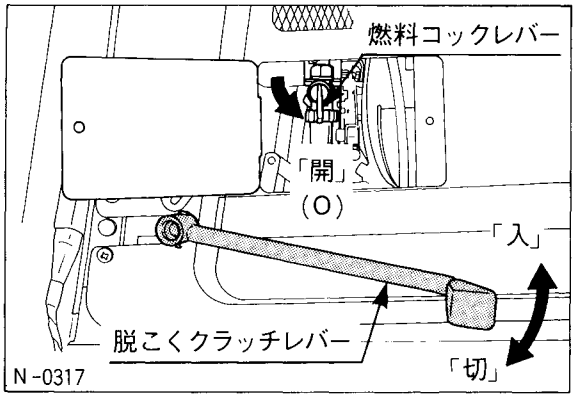
空冷エンジンの始動と停止 ——【RH400・500仕様】

始動のしかた

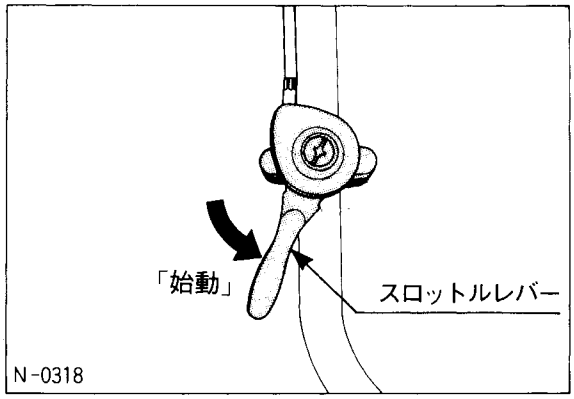
❶変速レバーを「中立」(N)の位置にする。
❷走行クラッチレバーを「切」の位置にする。



❸脱こくクラッチレバーを「切」の位置にする。
❹燃料コックレバーを「開」(O)の位置にする。



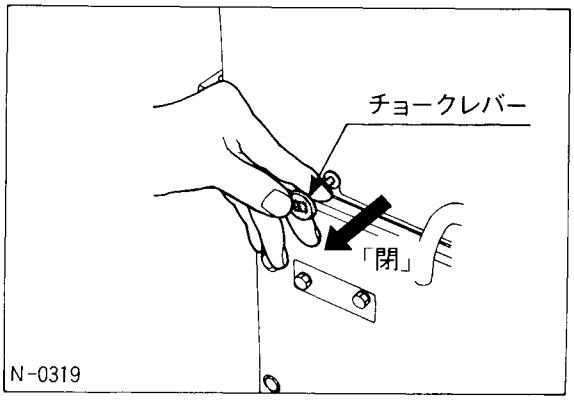
❺スロットルレバーを「始動」の位置にする。



❻チョークレバーを手前に引張って「全閉」にする。

注意

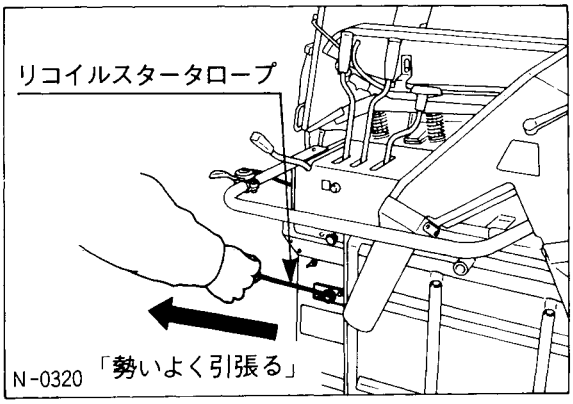
- エンジンが暖まっているときは，チョークレバーはそのまま「全開」位置で始動してください。



始動のしかた

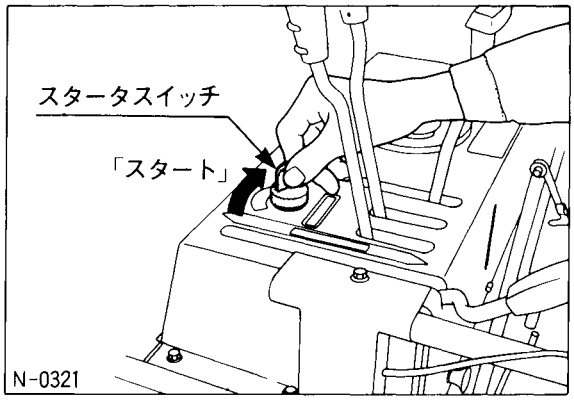
リコイル仕様の場合

❼リコイルスタータのロープを重さを感じるところまで引き，ロープを一度戻してから勢いよく引張ると，エンジンが始動します。



セル(ーS)仕様の場合

❼スタータスイッチを「ON」にし，「スタート」の位置まで回す。
エンジンが始動すれば，キーから手を放す。



注意

● スタータスイッチを「スタート」にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
15秒以上の使用は，故障の原因になります。

❽始動後，エンジンの調子をみながらチョークレバーを徐々に元に戻す。(「全開」にする)

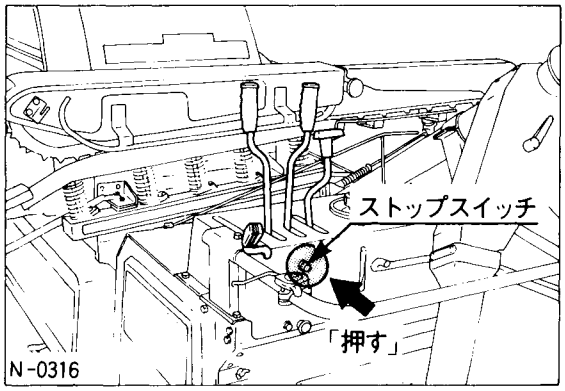
注意

(1)エンジンが始動すれば，約３分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。
(2)エンジンの回転速度を上げるときは，スロットルレバーはゆっくりと操作してください。

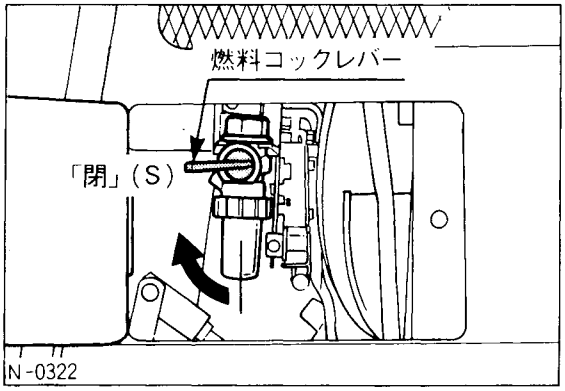
停止のしかた

リコイル仕様の場合

❶脱こくクラッチ,走行クラッチを「切」にする。
❷スロットルレバーで，エンジンの回転速度を下げる。(「低速」の位置にする。)
❸ストップスイッチを押すと，エンジンは止まります。



❹停止後，燃料コックレバーを「閉」(S)の位置にする。

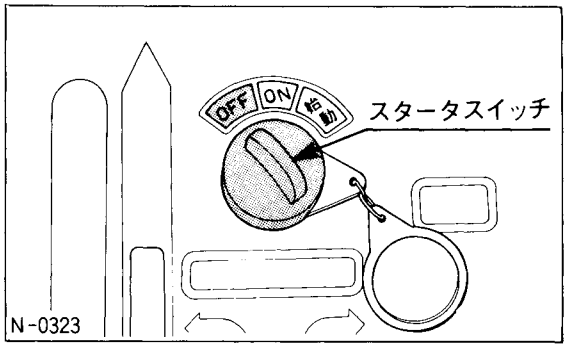


注意

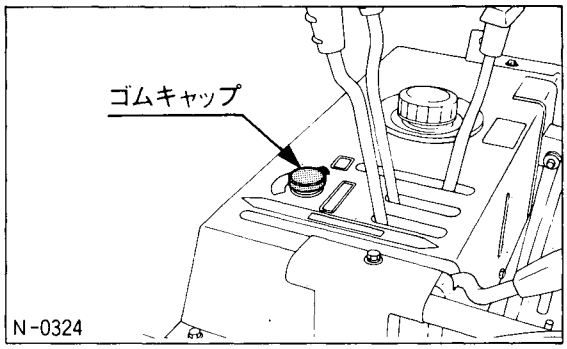
●高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

セル(一S)仕様の場合

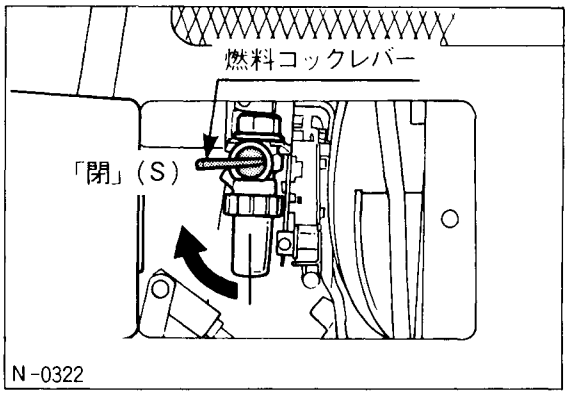
❶脱こくクラッチ,走行クラッチを「切」にする。
❷スロットルレバーで，エンジンの回転速度を下げる。(「低速」の位置にする。)
❸スタータスイッチを「OFF」にして，キーを抜取る。



❹ゴムキャップをする。



❺停止後，燃料コックレバーを「閉」(S)の位置にする。



注意

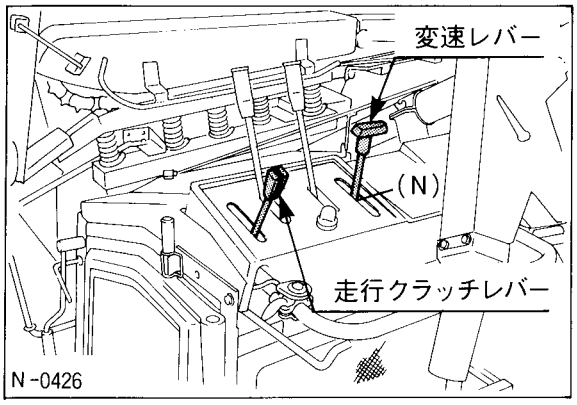
(1)エンジン停止後は，必ずスタータスイッチを「OFF」にしてください。「ON」で放置すると電流が流れた状態のままとなり,「バッテリ上がり」の原因となります。
(2)高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

ディーゼルエンジンの始動と停止 ――――【RH450・650・750・950仕様】

始動のしかた

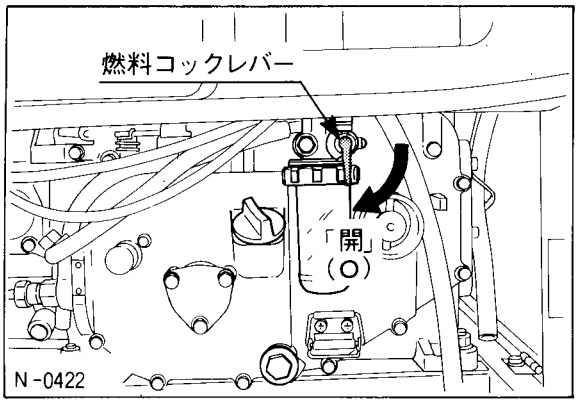
❶変速レバーを「中立」(N)の位置にする。

❷走行クラッチレバーを「切」の位置にする。

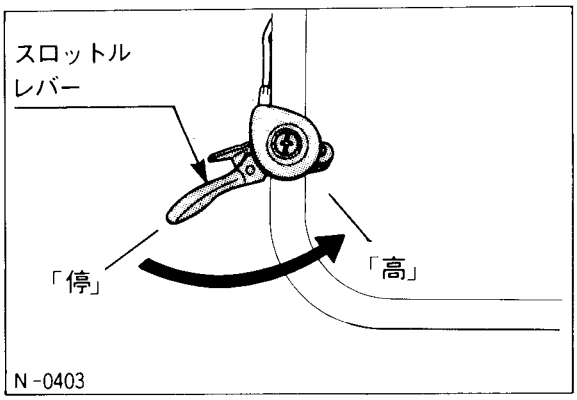


❸脱こくクラッチレバーを「切」の位置にする。

❹燃料コックレバーを「開」(O)の位置にする。



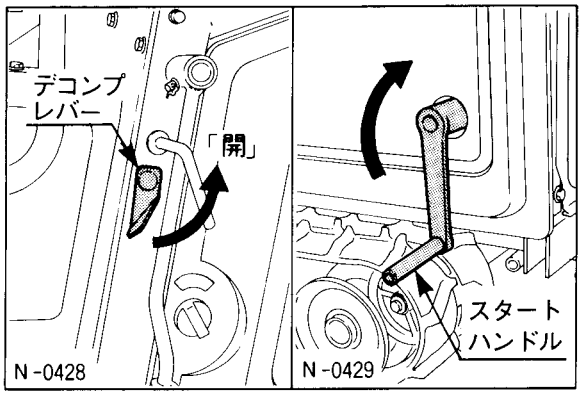
❺スロットルレバーを「高」の位置にする。



クランクハンドル仕様の場合

【RH650・750仕様】

❻左手でデコンプを「開」にし，右手でスタートハンドルをスタート軸に入れ，４～５回空回しして，デコンプレバーを放し，ハンドルが勢いよく圧縮位置を越せば始動します。



注意

(1)クランク軸にスタートハンドル爪が完全に引掛かるまで奥に入れてください。

(2)圧縮位置は上と下にありますが，下側に合せて圧縮を越してください。上側に合せると手首を痛めたり，逆転する恐れがあります。

(3)デコンプを放すタイミングは，コン！コン！と噴射音が聞こえたら放してください。燃料が噴射する音です。

(4)エンジンが始動し始めると，ハンドルは軸から自然に抜けますので，絶対にハンドルから手を放さないでください。

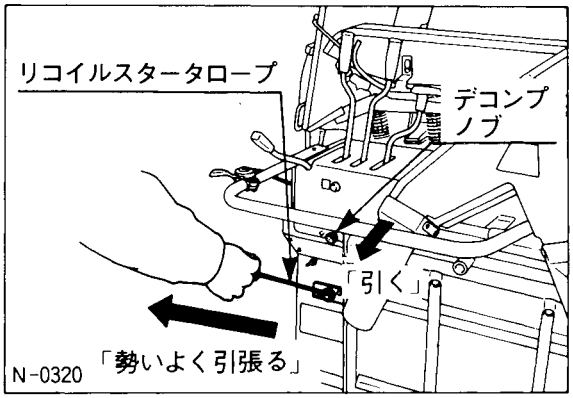
始動のしかた

リコイル仕様の場合【RH450仕様】

❻ウォーミングアップのため，デコンプノブを手で引張った状態で，力強くスタータロープを４～５回引張ってください。

❼リコイルスタータのロープを引張り，圧縮の位置を確認後ロープをゆっくり元に戻す。

❽デコンプノブを引張り，リコイルスタータのロープを勢いよく長めに引張ってください。デコンプノブは自動的に戻ります。

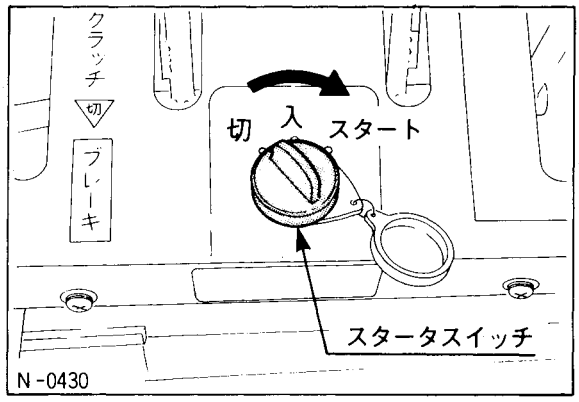


セル(－S)仕様の場合

【RH450-S・650-S・750-S・950-S仕様】

❻スタータスイッチを「ON」(入)にし「スタート」の位置まで回す。

エンジンが始動すれば，キーから手を放す。



注意

- スタータスイッチを「スタート」にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
  15秒以上の使用は，故障の原因になります。

注意

(1)エンジンが始動すれば，約３分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。

(2)エンジンの回転速度を上げるときは，スロットルレバーはゆっくりと操作してください。

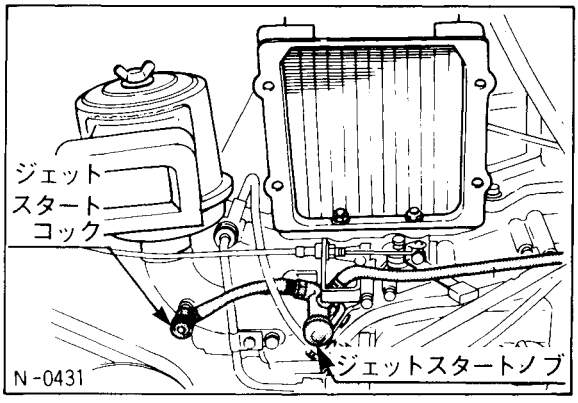
★寒冷時のスタート【RH450・650・750・950仕様】

寒冷時の始動困難な際は，「始動のしかた」の❺と❻の間で，ジェットスタートを御使用になりますと，楽に始動することができます。

❶ジェットスタートコックを左にねじって，コックを開けます。

❷ジェットスタートノブを４～５回引き押しします。(１回につき１cc注入されます)

❸燃料注入が終ればコックを元どおりに完全に締めます。コックを開けていますと，運転中，燃料を吸込む恐れがあります。



注意

(1)始動用燃料は，タンク下部の取出し口からゴムパイプを通りジェットスタートへ吸込まれますが，フューエルタンクの底にゴミや水がたまりますと，ジェットスタートの吸込みが悪くなりますから注意してください。

(2)ラジエータに熱湯を入れると，エンジンがあたたまって始動が楽になります。

(3)寒冷時最も大切なことは，クランクケースのオイルに，指定のクボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D10W30を使っていただくことです。

停止のしかた

リコイル仕様の場合【RH450仕様】
クランクハンドル仕様の場合
【RH650・750仕様】

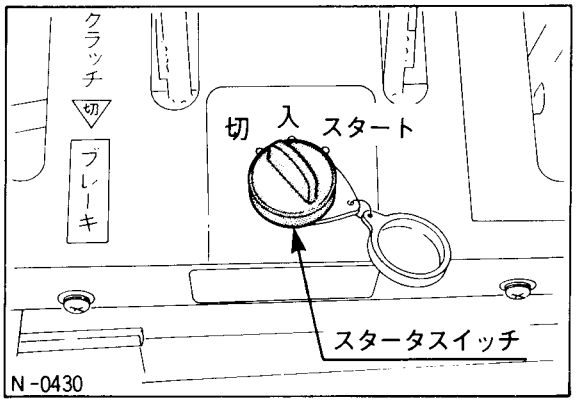
❶脱こくクラッチ,走行クラッチを「切」にする。
❷スロットルレバーを「停」の位置まで動かすとエンジンは停止します。
❸燃料コックレバーを「閉」(S)にする。

注意

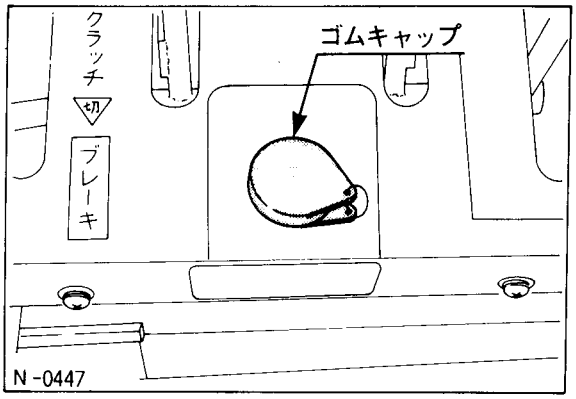
- この際デコンプレバーやデコンプノブには絶対に触れないでください。バルブ関係が故障します。

セル(ーS)仕様の場合
【RH450-S・650-S・750-S・950-S仕様】

❶脱こくクラッチ,走行クラッチを「切」にする。
❷スロットルレバーを「停」の位置まで動かすとエンジンは停止します。
❸スタータスイッチを「OFF」(切)にして，キーを抜取る。



❹ゴムキャップをする。



❺燃料コックレバーを「閉」(S)にする。

注意

- エンジン停止後は，スタータスイッチを必ず「OFF」(切)にしてください。「ON」(入)で放置すると電流が流れた状態のままとなり，「バッテリ上がり」の原因となります。

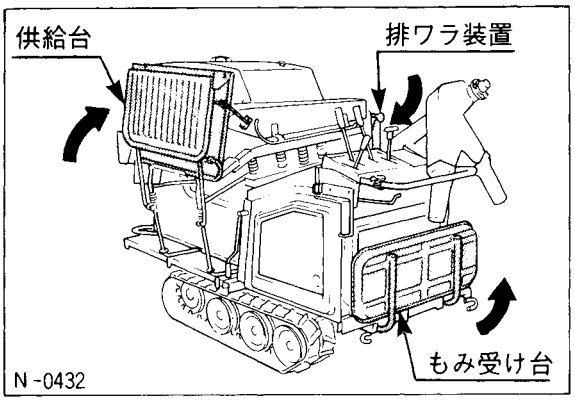
路上走行について

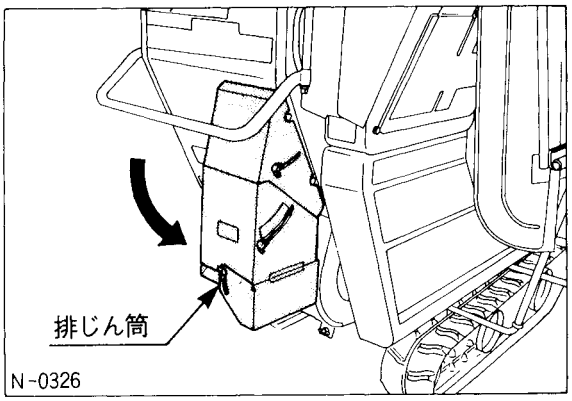
安全ポイント

(1)発進の際は，前進・後進を問わず，周囲の安全に充分注意し，確認の上で行なってください。
(2)旋回するときは，低速に落としてから操作してください。高速のままでサイドクラッチレバーを引くと，急旋回するので危険です。
(3)路上走行するときは，もみ受け台は必ず折りたたみ，危険ですから絶対に上へ乗らないでください。
(4)凹凸はできるだけ避けて，機体にショックがかからないようにしてください。
(5)やむをえず，凹凸のはげしい道路，傾斜地(10度を越える傾斜，但し15度以上は無理です。)，道路の端が低くなったり，高くなったりするところを走行するときは，スリップ，転倒，くずれ落ちなどの事故を防ぐため，走行速度は「低速」にしてください。
(6)踏切を渡る場合は，必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

走行のしかた

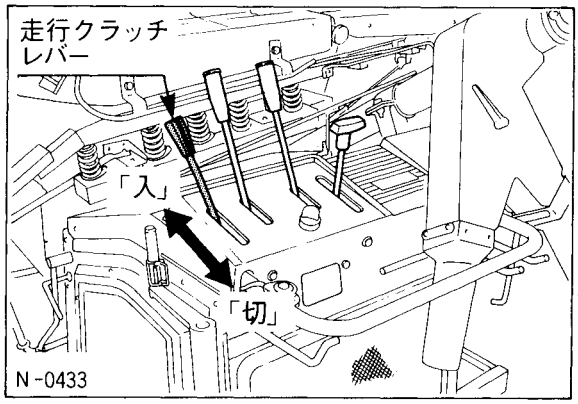
❶道路又はほ場での走行時は，供給台，排ワラ装置，袋受け棒，もみ受け台，排じん筒を折りたたむ。



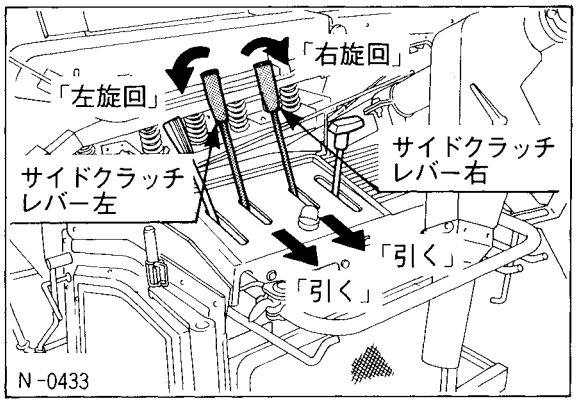


❷エンジンを始動する。

❸変速レバーを作業条件に合せた位置にし，走行クラッチレバーを「入」にすると動き出します。



❹サイドクラッチレバーの操作。



停車のしかた

リコイル仕様の場合【RH400・500・450仕様】

❶走行クラッチレバーを「切」にする。
❷ストップスイッチを押し，エンジンを停止させる。【RH400・500仕様】
❷スロットルレバーを「停」の位置まで動かし，エンジンを停止させる。【RH450仕様】
❸燃料コックレバーを「閉」(S)にする。

クランクハンドル仕様の場合【RH650・750仕様】

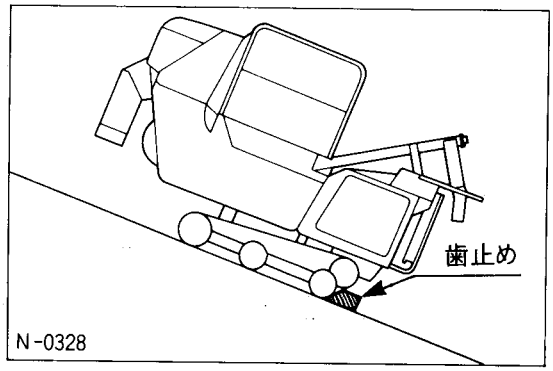
❶走行クラッチレバーを「ブレーキ」にする。
❷スロットルレバーを「停」の位置まで動かし，エンジンを停止させる。
❸燃料コックレバーを「閉」(S)にする。

セル(一S)仕様の場合

❶走行クラッチレバーを「切」(RH400・500・450仕様)又は「ブレーキ」(RH650・750・950仕様)にする。
❷スロットルレバーを「停」の位置まで動かし，エンジンを停止させる。
【RH450・650・750・950仕様】
❸スタータスイッチを「OFF」(切)にする。
❹燃料コックレバーを「閉」(S)にする。

注意

●停車する場合は，なるべく平たんな安定した場所にしてください。
やむなく傾斜地に機械を置く場合は，「歯止め」をして暴走を防止してください。



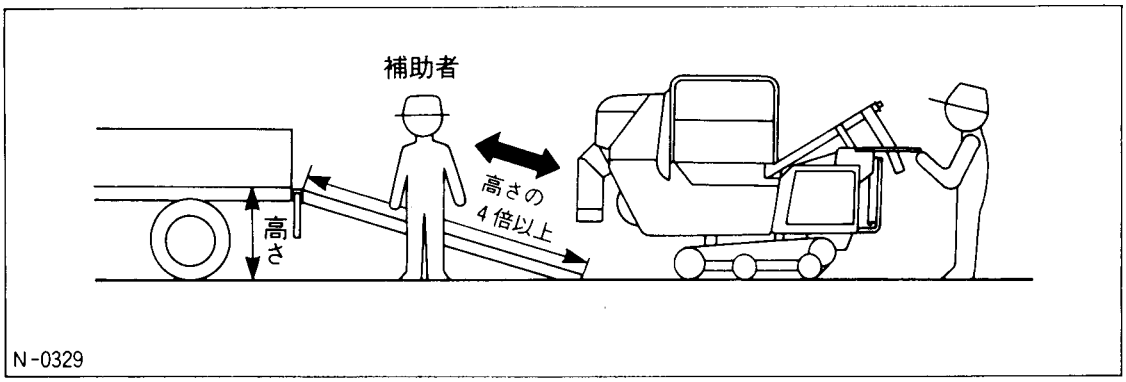
自動車への積降ろし，運搬

積降ろし

安全ポイント

(1)トラックなどへの積降ろしは，周囲に危険物のない平たんな場所を選んで，運転者のほかに監視誘導する補助者を1名おき，慎重に行なってください。

(2)アユミ板は，充分な強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，ハーベスタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



(3)アユミ板のフックは，荷台に段差のないように，またずれないように確実に掛けてください。

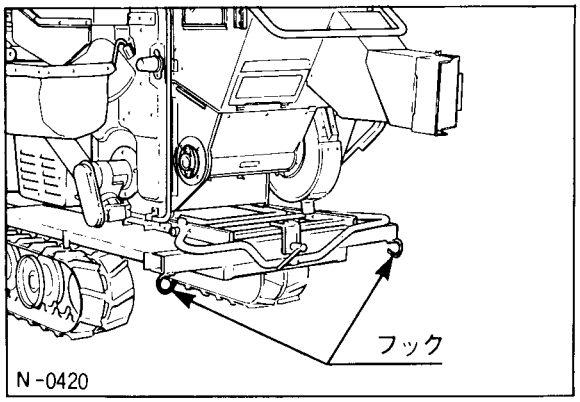
(4)アユミ板の途中でサイドクラッチを切ると，機体が急旋回し落下する危険がありますから，絶対に操作しないでください。

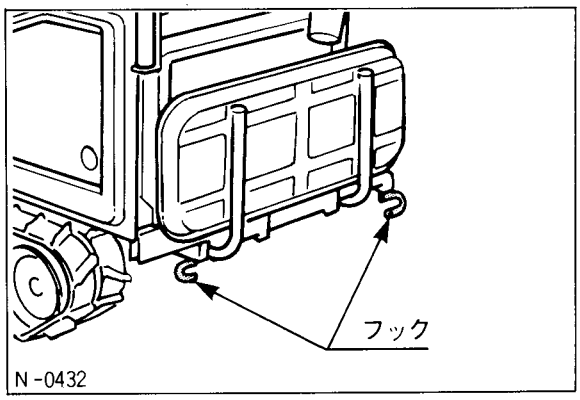
(5)サイドクラッチを操作する必要のないように，アユミ板の中央に左右のクローラを合せてから積降ろしをしてください。

(6)エンジン回転数と車速は，低速でゆっくりと行なってください。

運搬

自動車やトレーラなどに積んで走るときは，ロープを掛けてください。ロープはフレームの所定の「ロープ掛けフック」に掛けてください。





注意

●長距離運搬する場合，供給台が倒れる恐れがありますので，安全を期すためにロープを掛けてください。

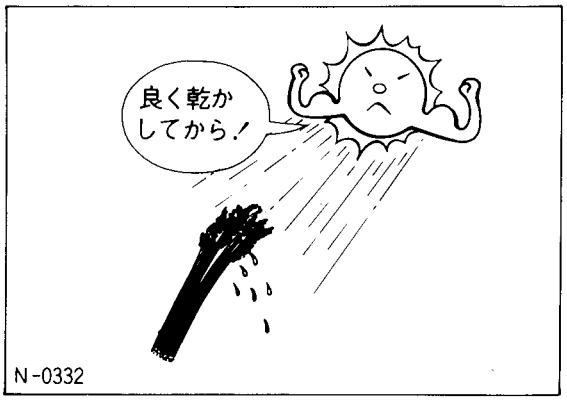
上手な作業のしかた

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態

作物とほ場の状態が下記の条件より悪いときは，正常なハーベスタ作業はできません。

作物の条件

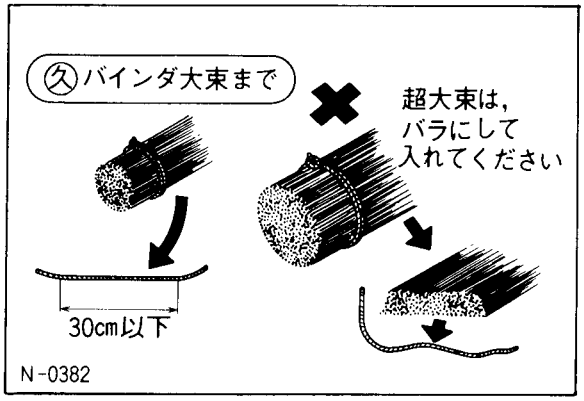
(1)乾いていること。



注意

●ぬれていたり，水分が高いと作業能率の低下をまねくと共に，選別不良や脱こく内部の詰まりの原因となりますので，充分乾かしてから作業を開始してください。

(2)束の大きさは，クボタバインダ大束まで。
（ひも周長30cmまで）

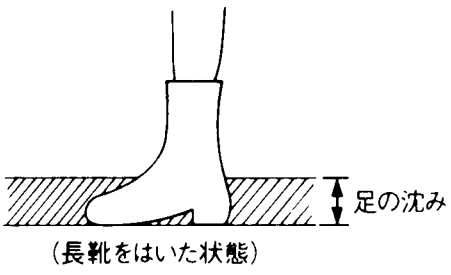


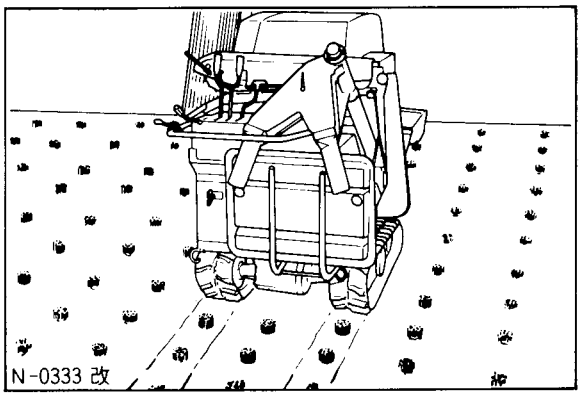
注意

●超大束で脱こくしますと，こぎ残し，能率低下，選別不良，脱こくの詰まりの発生をまねくと共に，脱こくの破損にもつながりますので，超大束はバラにして入れてください。

ほ場の条件

(1)人間の足が6 cm程度沈下する所までが，作業の限度です。



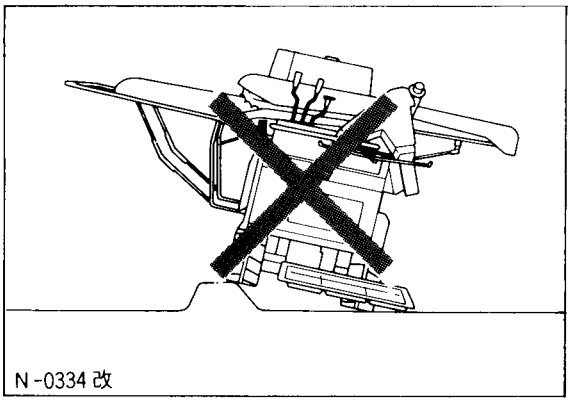


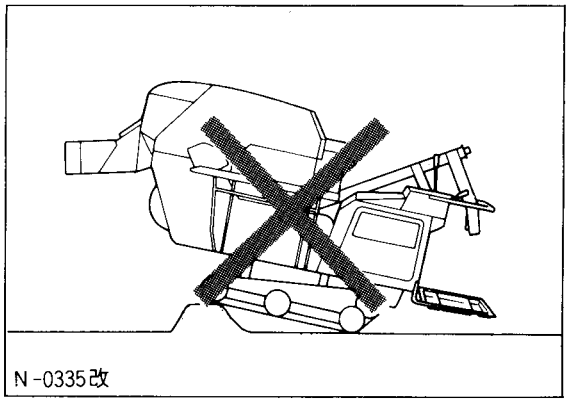
注意

●湿田で走行する場合は，クローラが刈株の上を走るようにすると，沈下量が少なくなります。

ほ場の条件

(2)機体が傾斜しない平らな所で作業してください。


N-0334 改


N-0335改

注意

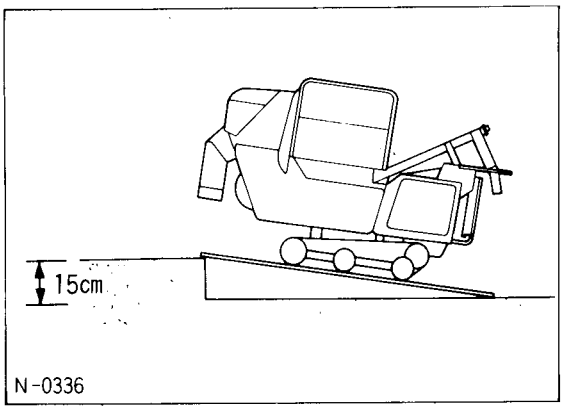
●脱こくの詰まり，選別不良の原因になりますので，平らな所で作業してください。

ほ場への乗り入れ・あぜ越え

安全ポイント

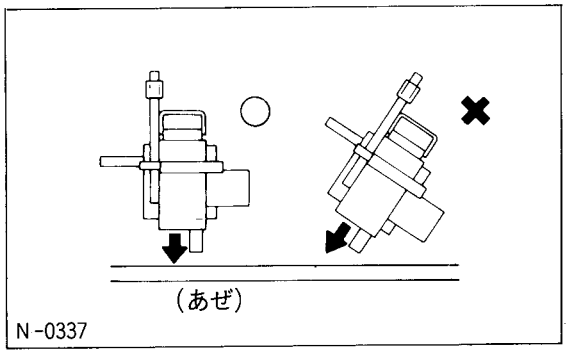
●速度は低速で，エンストしない程度までエンジン回転を落として行なってください。

(1)15cm以上の高いあぜの場合は，アユミ板を使用してください。



N-0336

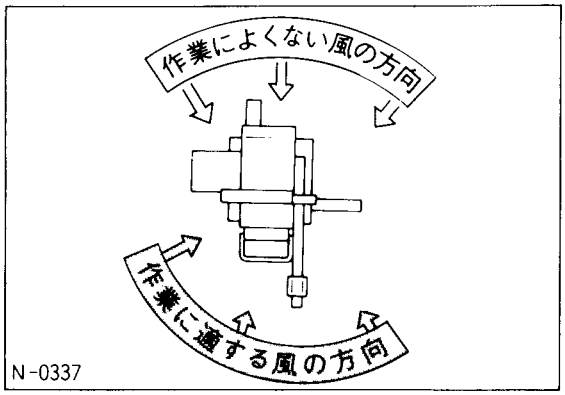
(2)あぜ越えは，エンストしない程度にエンジン回転を落として，あぜに直角に乗越えてください。



N-0337

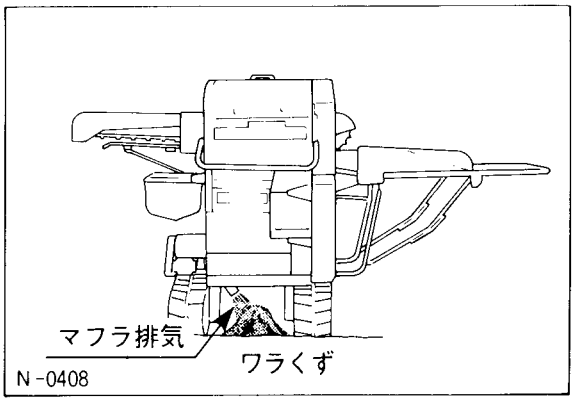
作業に適した機械の方向

(1)風が吹く場所での脱こく作業は，下図のように「風の方向」を考慮して作業してください。



N-0337

(2)ワラくずの上で連続作業はしないでください。機体フレームの下に排気管があり，火災の原因になります。

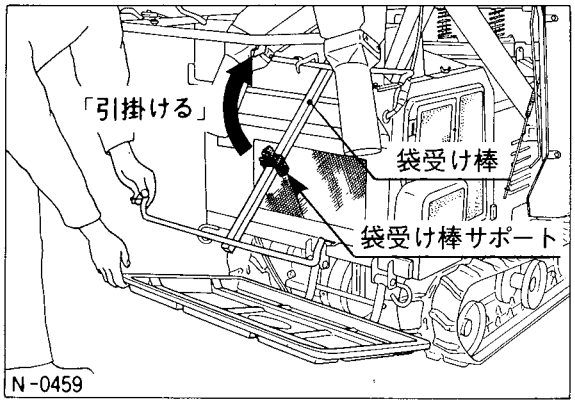


N-0408

★もみ袋の取付け

❶もみ受け台を倒し，袋受け棒を持上げ，袋受け棒サポートをハンドルに引掛け固定する。

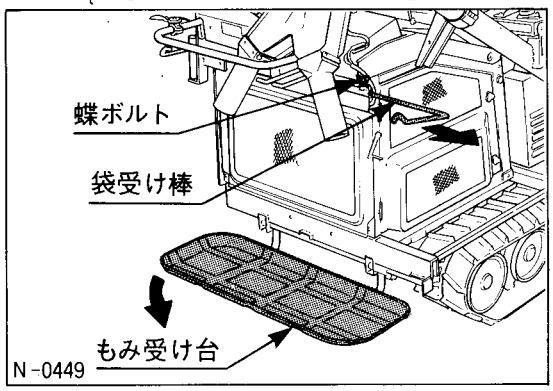
【RH400・500・450仕様】



注意

●もみ受け台は，掛け金具を外さないと倒れません。

❶もみ受け台を倒し，袋受け棒を引出し，ロールピンがパイプに引っかかったら蝶ボルトで固定する。【RH650・750・950仕様】

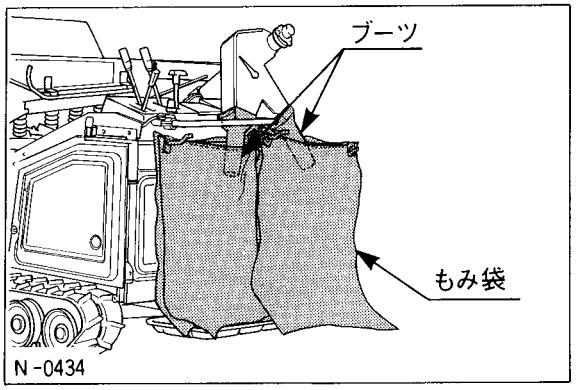


注意

●もみ受け台は，掛け金具を外さないと倒れません。

❷袋受け棒に，もみ袋をかける。1番端の袋は，吐出口ブーツを中に入れる。(左右共)

【RH400・500・450・650・750仕様】



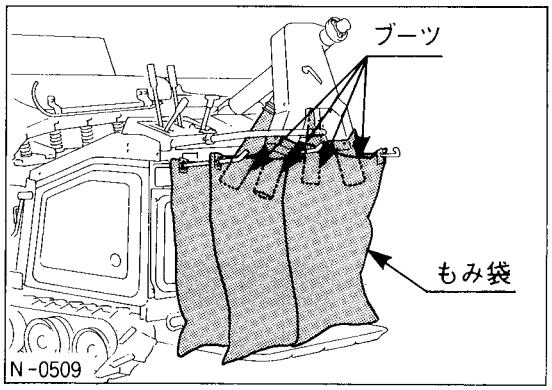
注意

(1)左右共，同じ枚数(10枚)入れてください。

(2)袋のチャックは，全て開けてから取付けてください。

❷袋受け棒の奥側フック(オーバフロー用)に，左右共もみ袋をかけ，ブーツを中に入れる。次に，順次もみ袋をかけてゆき，1番手前の袋にも左右共，ブーツを中に入れる。

【RH950仕様】



注意

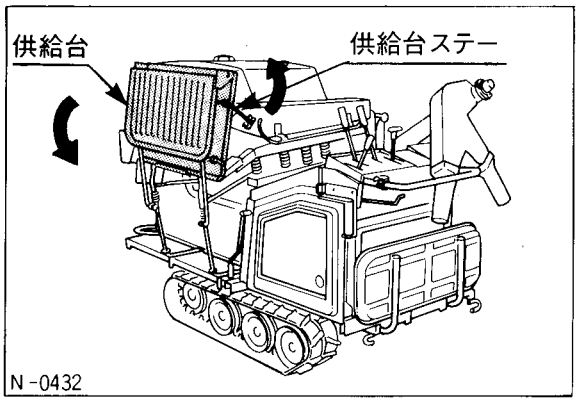
(1)左右共，同じ枚数(10枚)入れてください。

(2)袋のチャックは，全て開けてから取付けてください。

★供給台の出しかた

❶供給台ステーをフィードチェーンカバーより外す。

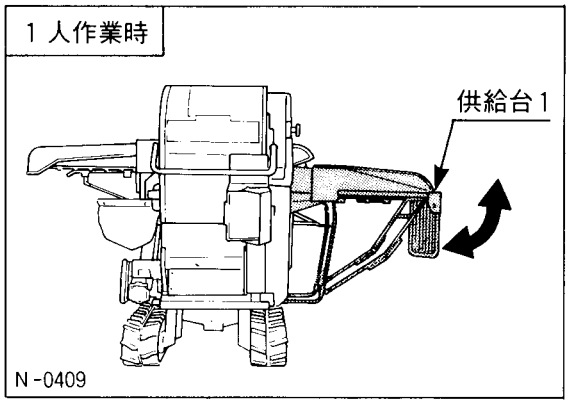
❷供給台を倒す。

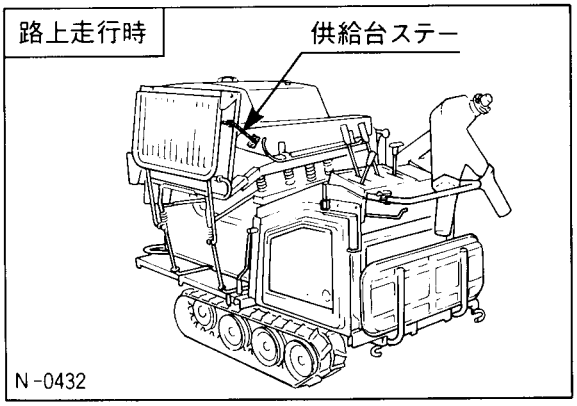


★供給台の取扱い

(1)供給台は２段折りたたみができます。１人作業を行なうときなどは供給台１を図のように下側に折りたたんで使用すると便利です。

(2)路上又はほ場での走行時は，必ず供給台を図のように折りたたんで供給台ステーでセットしてください。



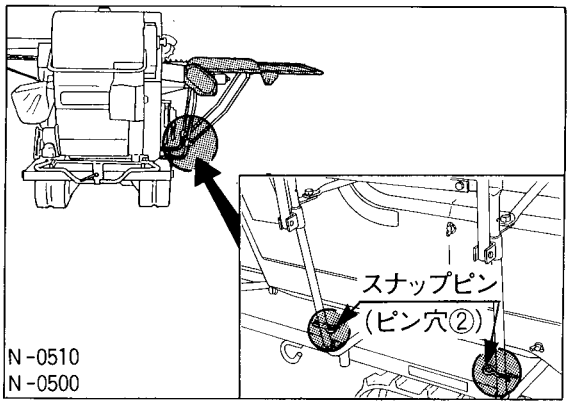


★供給台の高さ調節のしかた【RH950仕様】

身長や作業条件に合せて最適な作業ができるよう，供給台の高さは，２段階に調節できます。

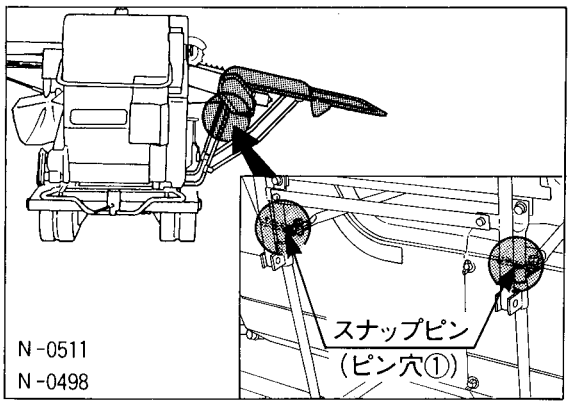
◆水平にする場合【工場出荷時】

スナップピンをピン穴②に差込んで，供給台を倒してください。



◆斜めにする場合

スナップピンをピン穴①に差込んで，供給台を倒してください。

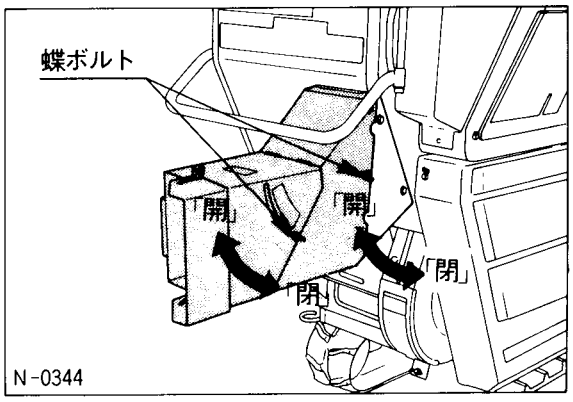


供給台の高さが，地上より約77cmになります。

★排じん筒の取扱い

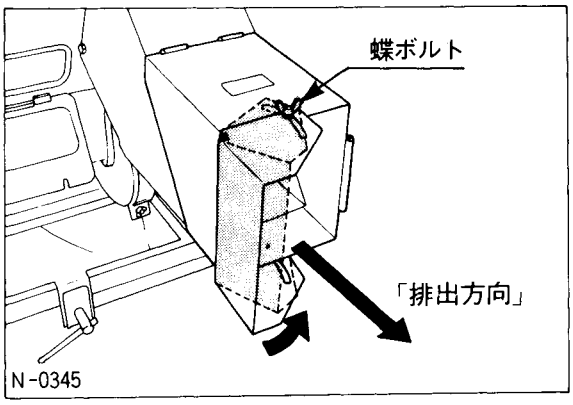
工場を出荷するときは，下向きにたたんであります。脱こく作業をするときは２段折りたたみのため，蝶ボルト２本をゆるめ，上にいっぱい出してください。

上に出した後は，蝶ボルトで確実に固定してください。



★排じん方向の変更

排じん切換板を蝶ボルトにて調節しますと，排じんの向きが変わります。(左右切換式です)



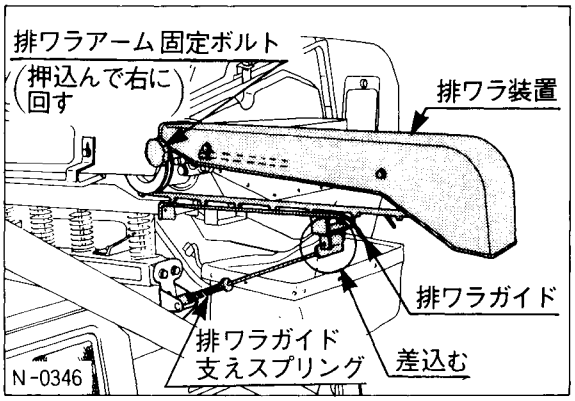
★排ワラ装置の取扱い

安全ポイント

- 調節は，エンジンを必ず停止してから行なってください。

工場を出荷するときは，下側にたたんであります。脱こく作業をするときは，上側へ出して水平にし，排ワラアーム固定ボルトで固定してください。排ワラガイドは，ワンタッチで差込んで組立てできるようになっています。

(納品時，排ワラガイド支えスプリングに巻いてあるスポンジは外してください。)



ハーベスタ作業のしかた

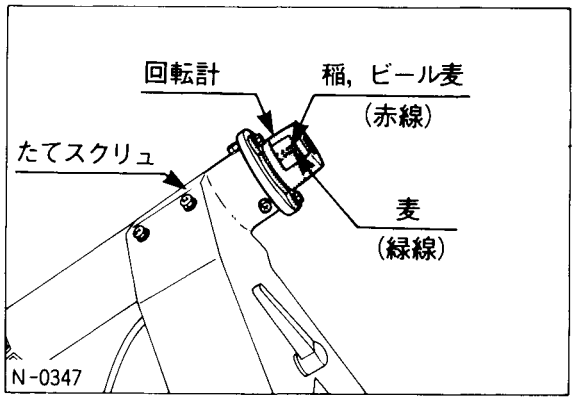
安全ポイント

(1)エンジンを始動したり，各クラッチを入れるときは，共同作業者に合図して，安全を確認してください。
(2)作業中には，脱こくの回転部に，手や体を近づけないようにしてください。
(3)異常が発生したときは，エンジンを必ず停止してから点検してください。
(4)外装品(安全カバー)を取外しての作業は絶対にしないでください。
(5)ワラくずの上で作業又は停止しないでください。機体フレーム下に排気管があり火災の原因になります。
(6)脱こく作業終了後は，３分位空運転し，脱こく機内のワラくずを完全に排出してください。
(7)脱こく作業を終えてシートを機械にかけるときは，火災の原因になることがありますので，エンジン，マフラが冷えてからにしてください。
(8)エンジン，マフラ，脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。なお，点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

★こぎ胴回転数の合せかた

エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを「入」にし，アクセルレバーで下表のように調整してください。

	回転計表示
稲，ビール麦	赤線(出荷標準)
麦	緑　線



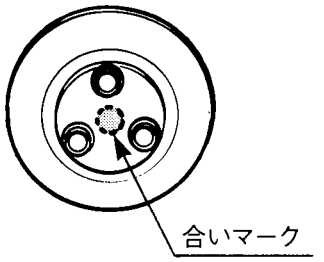
注意

(1)稲，ビール麦で脱ぷなどの損傷が目立つ場合は，回転計の指針を赤線より少し手前に合せてください。

(2)回転は無負荷にて合せてください。

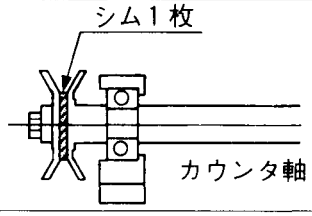
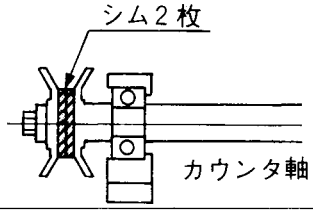
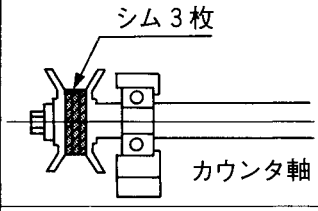
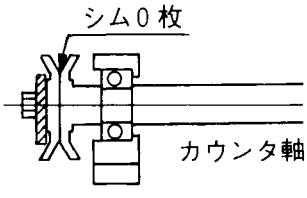
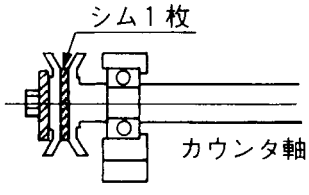
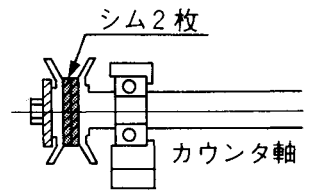
★エンジン変速プーリの調節【RH450仕様】

麦作業で１番口に穂切れ・ノゲ・稈の混入が多いときは，変速プーリを外して逆方向に取付けてください。

稲	 N-0399改	合いマークを内側に向ける。
麦		合いマークを外側に向ける。

★カウンタ割りプーリの調整(稲，麦回転調節)【RH650・750・950仕様】

稲，麦の調整はカウンタ出力プーリのシム調節により，脱こく回転を調整します。

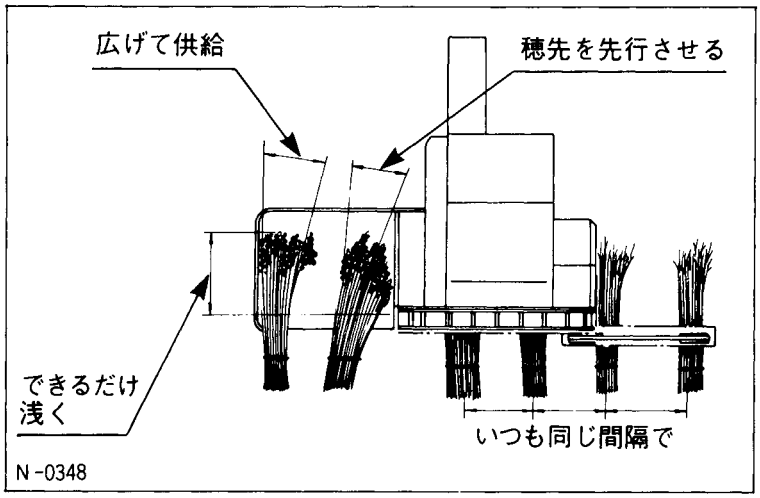
	RH650		RH750		RH950	
稲・ビール麦(出荷標準)		シム１枚		シム２枚		シム３枚
麦		シム０枚		シム１枚		シム２枚

N-0448

★ワラ束の供給のしかた

(1)穂先を先行させるようにして，束を広げて等間隔に供給してください。

(2)供給深さはこぎ残しのでない範囲で浅く供給してください。



守らないと！	こうなります！
●**穂先が先**になるように供給してください。	(1)ワラが傷みます。 (2)排じん量が多くなります。 (3)こぎ残りが出やすくなります。
●**束が大きい**と広げて供給してください。	(1)馬力を多く要します。 (2)こぎ残りの原因になります。 (3)能率が低下します。 (4)こぎ胴，フィードチェーンでのロックする原因になります。
●**回転にむら**の生じないように，常に一定の負荷で作業してください。	(1)詰まりの原因になります。 (2)安定した性能が発揮できない場合があります。
●脱こく中や後仕末のときは，**工具類，石，棒切れなど**をワラくずと一緒に供給しないように注意してください。	(1)機械の破損を生じます。 (2)異物混入の原因になります。
●**水分が高い(生こぎ)場合**の作業時には，束の供給量を少なくしてください。	(1)能率が上がりません。 (2)詰まりの原因になります。

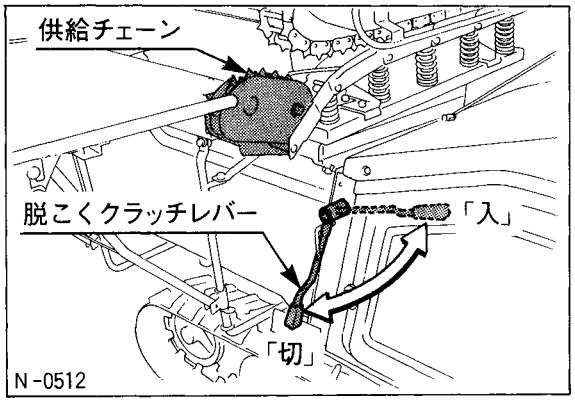
脱こくの操作のしかた【RH950仕様】

★簡易供給装置の取扱い

安全ホイント

●供給チェーンに，手や衣類などを巻込まれないように注意しながら作業を行なってください。

(1)エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを「入」にすると，脱こく部と供給チェーンが作動します。



注意

●このとき，供給チェーンの上にワラ束が乗っていると，脱こく部に供給されてしまうことがあります。

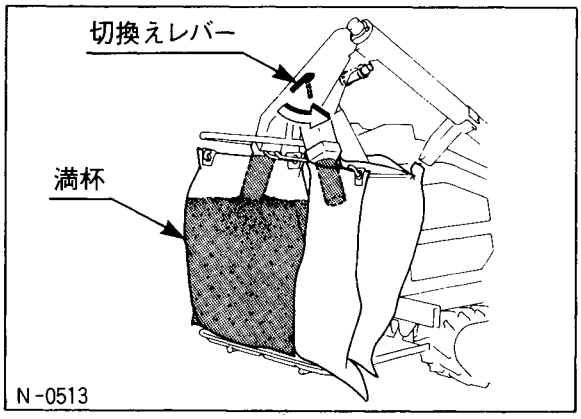
(2)株元は供給チェーンで自然に搬送されますが，穂先側は搬送されませんので穂先を先行させるように供給してください。

(3)ワラ束を供給台に山積みすると，こぎ手の者が効率よく作業ができなくなります。供給台には，４～６束位づつ供給チェーン部を避けた範囲に，平均に並べて置く方が，こぎ手の者は楽に効率よく作業を行なうことができます。

注意

●供給チェーンは，バッテリからモータで駆動しています。キースイッチやヒューズが切れていると作動しなくなります。

★吐出口の取扱い



作業中，手前左右の片方の袋が満杯になると，ブザーが数秒間鳴り，吐出口切換えレバーが自動的に左右に切換わりますので，速やかに次の袋にブーツを入れ，満杯の袋を取外してください。

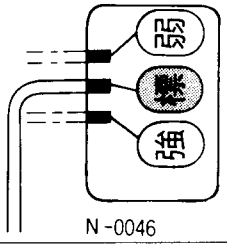
注意

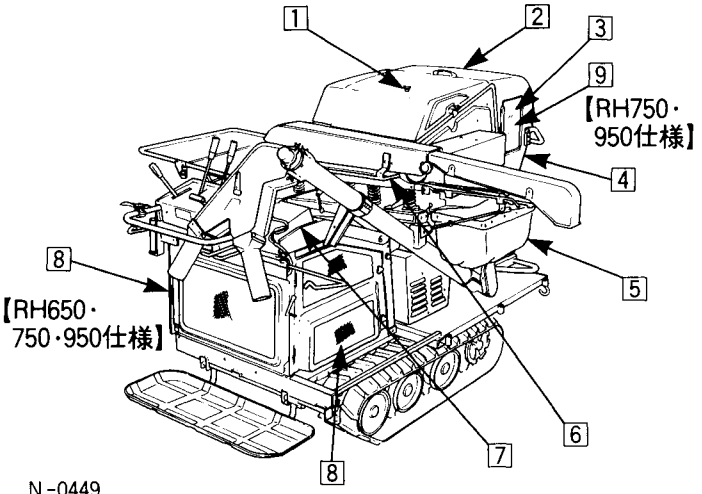
(1)そのまま放置していると手前左右共に満杯になり，再度ブザーが数秒間鳴り，吐出口切換えレバーが切換わります。
次に，連続でブザーが鳴り出すと，オーバフロー出口より後方の袋に流れ出しますが，もみが詰まって機械が破損する恐れがあります。
安全のため，なるべく早目に取外してください。

(2)後方左右のオーバフローの袋にもみがたまりすぎると，手前の袋を押すため，作業がしにくくなります。早目に脱こくクラッチレバーを切り，袋を交換してください。

(3)吐出口切換えレバーは，フザーが鳴り出してから数秒間は，手動では操作できません。

作業に適した調節のしかた（◎印は，出荷標準です。）

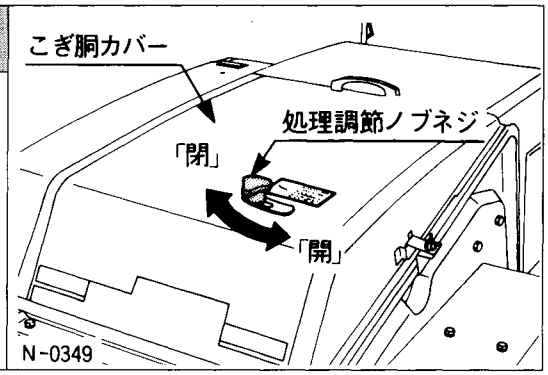
No.		調節範囲	適応
1	処理調節	開 閉	湿った稲，麦の脱こく 上記以外特に3番口に小枝梗付が出るとき
2	ブロワ・吸引調節	 N-0046	よく乾燥して３番飛散が多いとき 乾燥稲，ビール麦 湿った稲，麦（ビール麦を除く） １番口に切ワラが混入する
3	排じん仕切板の調節	排じん仕切 下 ◎上 排じん仕切板取外す	よく乾燥して３番飛散が多いとき 乾燥稲，麦 麦でワラ発生が多く，詰まるとき
4	ブロワ回転バーの取付け	◎無 有	稲 麦（ビール麦を除く）
5	選別調節板の調節（１番流し板）	上 ◎中 下	穀粒の傷みが多いとき 乾燥しているとき 選別が悪く，長ワラが多く入るとき
6	案内パイプの調節	上 ◎中 下	大　束 標　準 バラこぎ，引ぬきが多いとき
7	株元ガイドの調節	前 ◎後	短稈で大束 たてスクリュパイプに束が当る場合 長稈でたてスクリュパイプに束が当る場合
8	エンジン変速プーリの調節【RH450仕様】 カウンタ割プーリの調節【RH650・750仕様】	◎稲 麦	稲，ビール麦 小麦，大麦で１番口に切ワラや「ノゲ」が混入するとき
9	排じんガイド３の調節【RH750・950仕様】	上 ◎中 ◎下	ワラ発生が多く，詰まるとき 標　準【RH750仕様】 標　準【RH950仕様】



N-0449

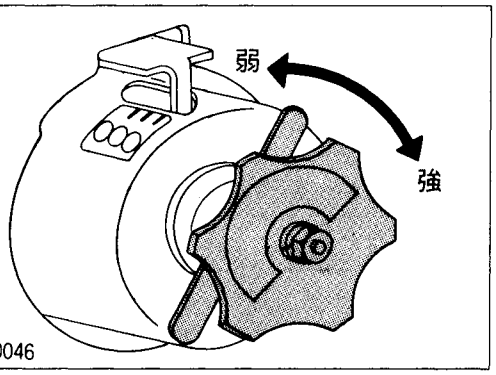
【RH450仕様】

1 処理調節



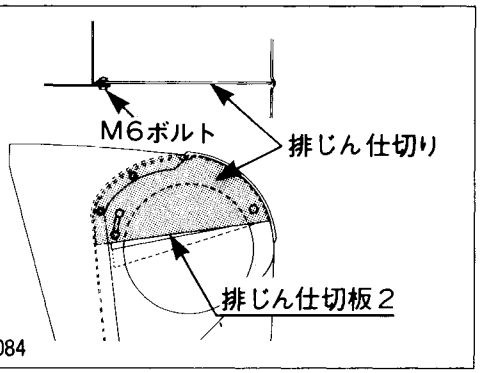
N-0349

2 ブロワ・吸引調節



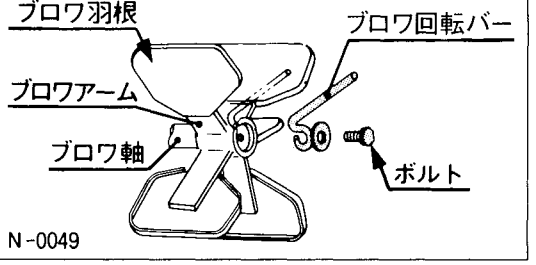
N-0046

3 排じん仕切板の調節



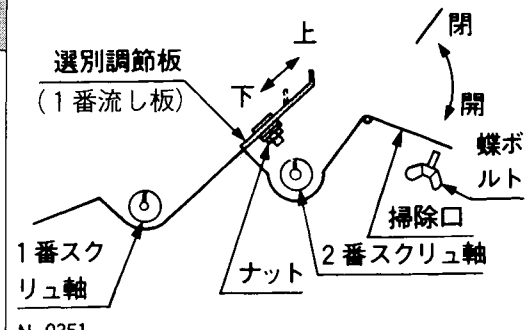
N-0084

4 ブロワ回転バーの取付け



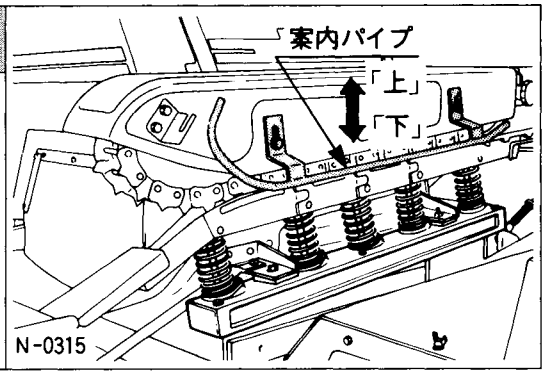
N-0049

5 選別調節板の調節



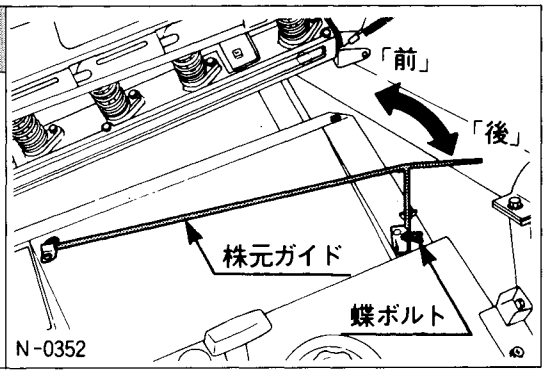
N-0351

6 案内パイプの調節



N-0315

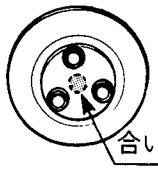
7 株元ガイドの調節



N-0352

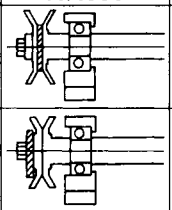
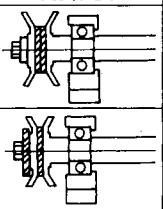
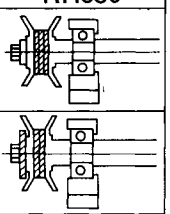
8 エンジン変速プーリの調節

【RH450仕様】



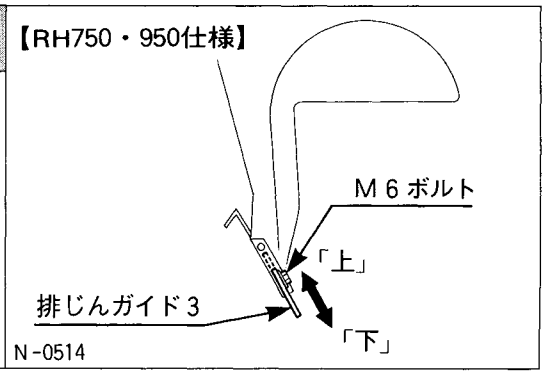
合いマーク	稲	内側
	麦	外側

カウンタ割りプーリの調節

	RH650	RH750	RH950
稲			
麦			

9 排じんガイド3の調節

【RH750・950仕様】



N-0514

不調時の点検と処置

状　態	原　因	処　置　方　法	参照ページ
3番口(排じん筒)からこく粒の飛散が多い。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	20ページ
	②ブロワの回転速度が速すぎる。	ブロワを調節して回転速度を遅くする。	23・24ページ
	③エンジンの回転変動が大きい。	エンジンを点検,調節する。 正しいこぎ方をする。	20・30・31ページ
	④2番スクリュ上にワラくずがたまっている。	機械を止め,きれいにワラくずを取除く。	——
	⑤こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	21ページ
こぎ残りが出る。	①こぎ深さが不適当。	こぎ深さを適正にして,正しいこぎ方をする。	21ページ
	②こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	20ページ
	③こぎ胴駆動ベルトがスリップしている。	脱こく伝導ベルトの張りを調節する。	39・40ページ
	④回転変動が大きい。	エンジンを点検・調節する。 正しいこぎ方をする。	20・30・31ページ
1番口(もみ出口)の選別が悪い。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	20ページ
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	23・24ページ
	③こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	21ページ
	④穂切れ,ノゲ,稈が多い。(麦作業)	エンジン変速プーリの取付方向を麦仕様にする。【RH450仕様】	20・23・24ページ
		カウンタ割リプーリのシム調節を麦仕様にする。【RH650・750・950仕様】	
もみが損傷(脱ぷ)する。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	20ページ
	②脱ぷしやすい品種である。	規定回転速度より少し低めで作業をする。	20ページ
	③こぎ室内でのワラ移動が悪い。	ワラ切刃をよく研摩する。	43ページ
	④2番還元量が多い。	選別調節板を上げる。	23・24ページ
もみが出てこない。	①ぬれたもみが流こく板から流れない。	ぬれたもみは脱こくしないこと。	15ページ
	②揺動装置が止まっている。	ベルト及びテンションプーリを点検し,調整する。	39・40ページ
	③たてスクリュが詰まっている。	たてスクリュ掃除口を開けて掃除をする。	43ページ

状　態	原　因	処　置　方　法	参照ページ
排じん部及び2番スロワが詰まる。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	20ページ
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	23・24ページ
	③回転変動が大きい。	エンジンを点検，調整する。 正しいこぎ方をする。	20・30・31ページ
	④長ワラの発生が多い。	ワラ切刃をよく研摩する。	43ページ
	⑤ブロワベルトがスリップしている。	ベルトの張りを強くする。	39・40ページ
	⑥作物がぬれている。	乾いてから脱こくする。	15ページ
動力がかかりすぎる。（馬力を喰う）	①深こぎしすぎる。	こぎ深さを浅くし，正しいこぎ方をする。	21ページ
	②こぎ胴室内にワラがたまりすぎる。	ワラ切刃をよく研摩するか，ブロワの回転速度を速くする。	23・24ページ 43ページ
	③2番スロワが詰まっている。	上の2番スロワの項参照。	——
エンジンが始動しない。【RH400・500仕様】	①点火プラグが汚れている。	点火プラグを外して掃除する。	31ページ
旋回性能が悪い。	①サイドクラッチワイヤが伸びている。	調整ネジによりワイヤを調整する。	37ページ
もみ出口のブザーが鳴らない。	①配線が切れている。	点検して接続し直す。	55～57ページ
	②配線が間違っている。	点検して正しい配線をする。	55～57ページ

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

【RH450・650・750・950仕様】

現　象	原　因	処　置
始動の困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンク・燃料フィルタを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 (2)使用する燃料は，すべてフィルタでこされるため，フィルタには不純物や沈澱物が付着しやすくなっています。付着物があればフィルタを交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	(1)フューエルパイプ継手ボルト・袋ナットなどにゆるみがないかを点検する。 (2)エアー抜き・水抜きをする。
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。
エンジン出力が不足の場合	(1)燃料不足。	燃料系統を点検する。
	(2)エアークリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
エンジンが突然停止した場合	燃料不足。	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。（空気・水の混入に注意）
排気色が悪い場合	燃料が悪い。	良質の燃料と交換する。

状態	原因		処置方法	参照ページ
エンジンがかからない【セル(ーS)仕様】	セルスタータは回る	燃料送油系統に，空気や水が混入している。	エアー抜き，水抜きをする。	30ページ
		脱こくクラッチレバーが「入」の位置にある。	脱こくクラッチレバーを「切」の位置にしないと，余分な力がかかりセルスタータが回りにくい。	6・7・9・10ページ
		燃料がない。	燃料があるか点検し，ない場合は補給する。	4ページ
		燃料がある。	○燃料フイルタの目詰まりがないか点検し洗浄する。 ○燃料パイプの折れ，破損の点検。 ○自動車用レギュラガソリン(無鉛)油を補給したか。【RH400・500仕様】 ○クボタディーゼル重油を補給したか。【RH450・650・750・950仕様】	30ページ 32ページ 4ページ
	セルスタータが回らない	走行クラッチレバーが「入」の位置にある。	走行クラッチレバーを「切」の位置にする。	6・7・9・10ページ
		バッテリが上がっている。	○補充電をする。 ○バッテリ液を点検し不足の場合は，市販のバッテリ補充液を補給する。	34・35ページ
		ヒューズがきれている。(予備ヒューズ袋 ヒュージブルリンク)	点検し，切れている場合は予備ヒューズと交換する。	36ページ

★わからない場合は，販売店・農協にご相談ください。

各部の調整

工場出荷時に各部の調整を行なっておりますが，使用している間にチェーンやベルトが伸びてきますので調整してください。

安全ポイント

(1)調整は平たんな広い場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。
(2)交換中は火気厳禁!!

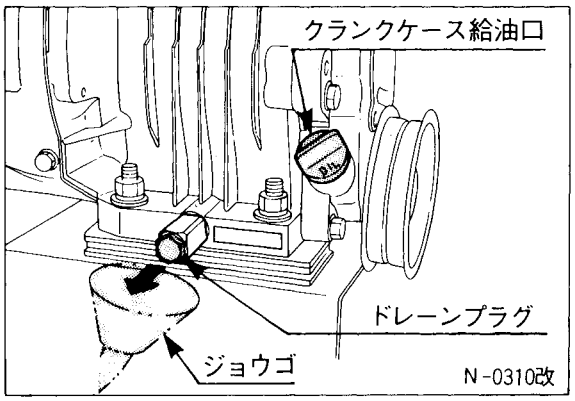
エンジンオイルの点検・交換

★排油のしかた【RH400・500仕様】

エンジン下部にあるドレーンプラグを外して汚れたオイルを出しきります。

注意

- エンジンが暖かいうちに行なうと完全に排出します。



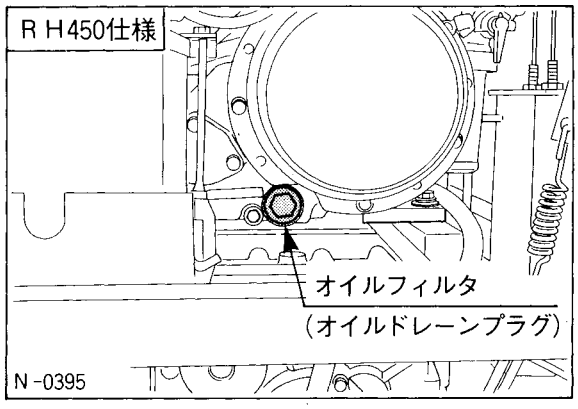
気温	オイルの種類	オイル量
夏	クボタ純オイル G30	【RH400仕様】 0.6ℓ
冬	クボタ純オイル G20	【RH500仕様】 0.9ℓ

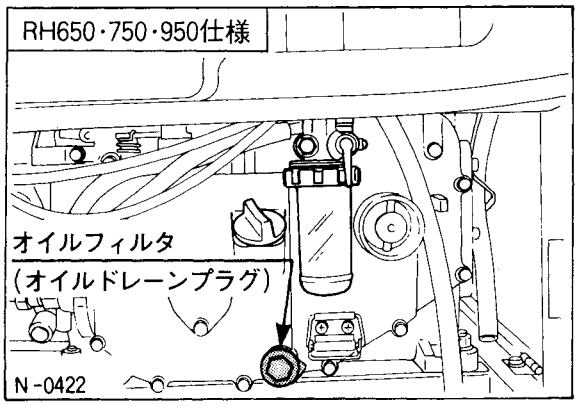
点検補給	交換時間	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと

★排油のしかた【RH450・650・750・950仕様】

❶オイルフィルタを外して，クランクケース内のオイルを全部排出します。

❷オイルフィルタとクランクケース内を軽油で洗浄します。





オイルは，クボタが研究開発した，オールシーズン用クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D10W30をお使いください。

なお，クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温		オイルの種類	オイル量
夏	20℃以上	SAE 30	【RH450仕様】 0.9ℓ 【RH650・750・950仕様】 2.3ℓ
春・秋	5°～20℃	SAE 20	
冬	5℃以下	SAE 10W 又は10W－30	

点検補給	交換時間	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと

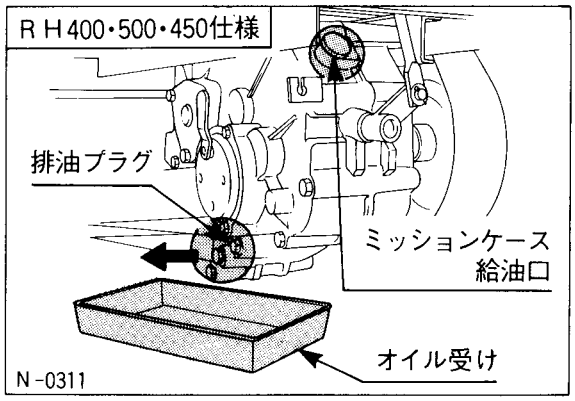
★排油のしかた

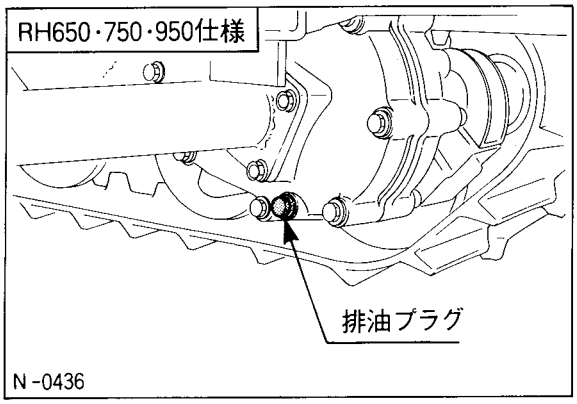
オイル交換はミッションケース排油プラグを外して行なってください。

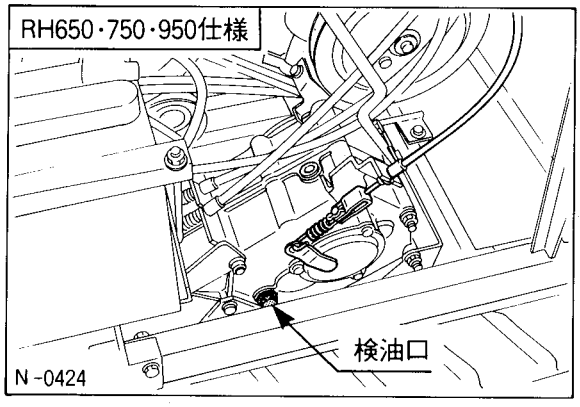
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90 （ミッション用）	【RH400・500・450仕様】 2.2ℓ 【RH650・750・950仕様】 2.7ℓ

★点検のしかた

点検補給	交換	
毎日使用前	第1回目	その後
	50時間目	100時間ごと



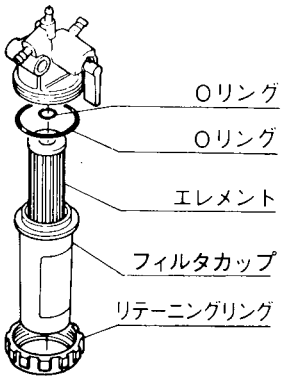




燃料フィルタの点検・清掃

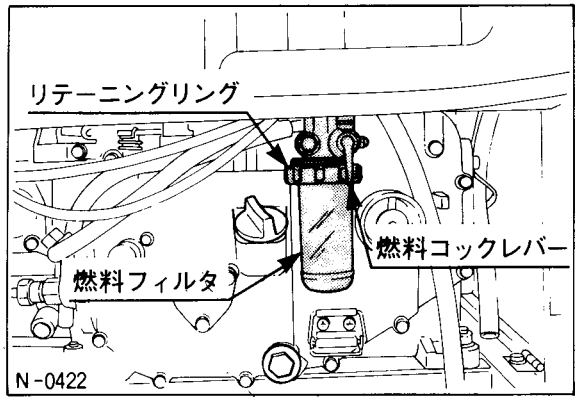
100時間運転に達しますと，燃料フィルタの洗浄を行なってください。
また，燃料フィルタは毎年作業前の燃料の給油か，又は作業終了後の長期保管前の燃料排出時に掃除してください。

❶燃料フィルタのコックを締める。
❷リテーニングリングを戻してカップを外し内部を軽油で洗浄する。
（RH400・500仕様は灯油）



N-0159

❸エレメントを取出し，軽油につけてすすぎ洗いをする。（RH400・500仕様は灯油）
❹洗浄後，ちりやほこりが付かないよう，また燃料洩れのないように元の位置に正しく組付ける。



N-0422

安全ポイント

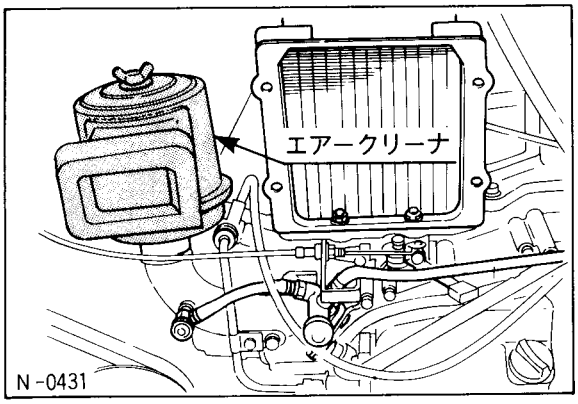
(1)エンジンは，必ず停止してから行なってください。
(2)こぼれた燃料は，きれいにふき取ってください。

注意

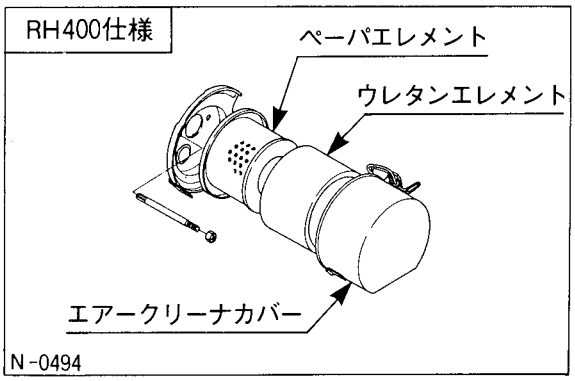
●燃料内にちりやほこりが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗しますので，燃料フィルタの洗浄には，特にちりやほこりが混入しないよう注意してください。

エアークリーナの点検・清掃

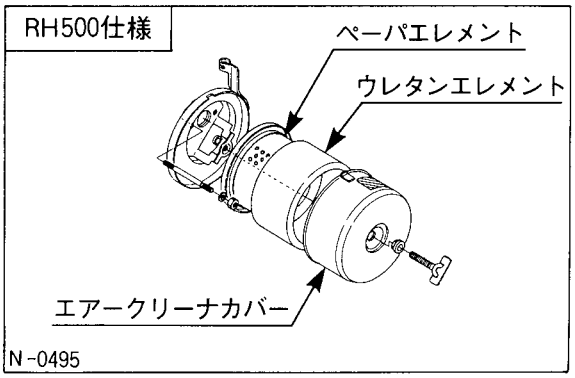
(1)各エアークリーナエレメントの清掃は，エアークリーナカバーを外してから行なってください。
(2)エレメントを取出し，軽くたたきながらゴミ，ホコリを落としてください。



N-0431

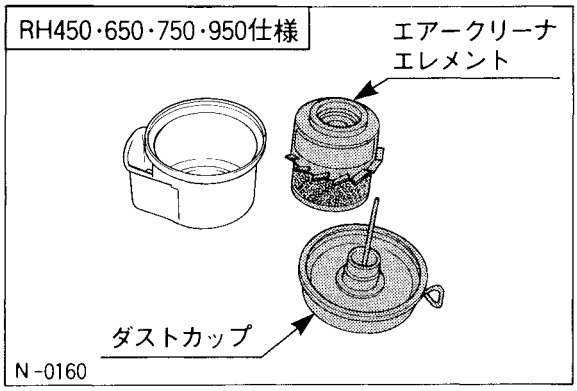


N-0494



N-0495

エアークリーナの点検・清掃



エアークリーナエレメント	
清　　掃	100a又は年1回 （土ぼこりの多い作業では毎日行なう。）
交　　換	400～500a又は 4～5年

安全ポイント

●点検・清掃は，エンジンを必ず停止して行なってください。

ハーベスタ作業では，特にちりやほこりを吸いやすいので，使用前には必ずダストカップを点検し，ダストカップ内にちりやほこりが半分以上たまらないように清掃してください。エレメントは清掃以外不必要にさわらないでください。清掃は100a又は年1回ごとに行なってください。

★清掃方法

エアークリーナエレメントの清掃は，エアークリーナカバーを外して，エレメントを取出し軽くたたきながらゴミを落としてください。

カーボンや油分の場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ないザブ洗いのあと，清水でよくすすいでから，通風のよい場所で自然乾燥してください。

乾燥のとき，圧縮空気や火気は使用しないでください。

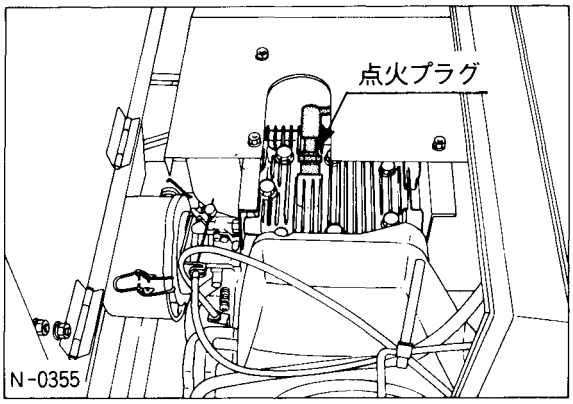
注意

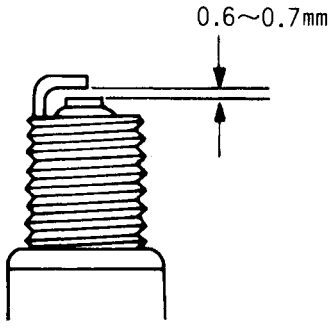
●エレメントに穴をあけたときは，新品と取換えてください。穴をあけたままで使用すると，エンジンの寿命を短かくします。

点火プラグの点検・調整【RH400・500仕様】

(1)点火プラグがカーボンで汚れている場合には，プラグクリーナ，又はワイヤブラシなどで汚れを落としてください。

(2)電極のすき間が広いときは，0.6～0.7mm(ハガキ2～3枚分の厚さ)に調整してください。





燃料パイプの点検

燃料系ゴムホースは,使わなくとも老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと又は,傷んだときには新品と交換する必要があります。〔部品詳細は純正部品表(RH950はディーラ用)を参考にしてください。〕

注意

(1)ゴムホースが損傷していると，燃料もれを起します。
必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災などの傷害事故を引起します。
(2)交換時にパイプや，燃料フィルタにゴミが入らないように気をつけてください。

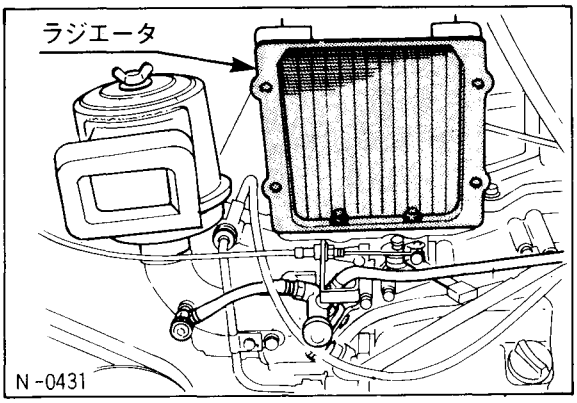
ラジエータの点検（防じん網）【RH450・650・750・950仕様】

安全ポイント

●点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

作業中，溢水が止まらずにラジエータ内の水管上端が露出するほど水が減るような場合は，次の点検をしてください。

❶ハーベスタを使用しているうちに，ラジエータの防じん網にワラくずやゴミが付着して，目詰まりを生じます。このような場合は冷却能力が低下しますので,防じん網を開いて,目詰まりを洗い落としてください。
❷ラジエータフィンとチューブの間に詰まっているゴミを，きれいに取除いてください。
❸ファンベルトがゆるんでおれば張ってください。(41ページ参照)
❹ラジエータ水管に水あかがたまっておれば，ラジエータ洗浄剤で洗浄を行なってください。



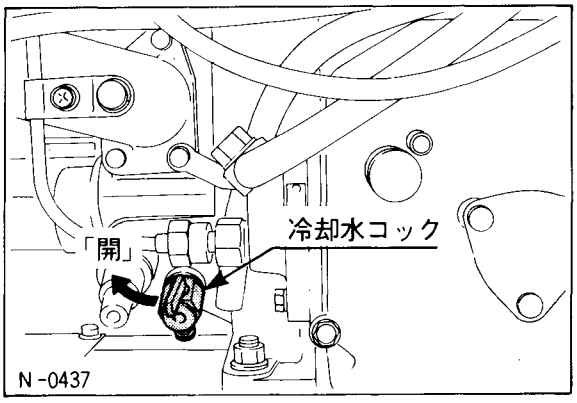
★ラジエータキャップ

安全ポイント

●運転中及び停止直後にキャップを開けると熱湯が吹出してやけどをしますから,キャップを外すのは,停止後10分以上たって冷えてからにしてください。

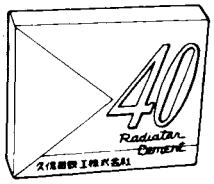
注意

●ラジエータから冷却水を抜くときは，シリンダヘッドの下にある冷却水コックを開けて，次に圧力キャップを開けますと，冷却水はほとんど全部排出されます。凍結のおそれがあるとき(不凍液を使わない場合)は必ず排出してください。



★ラジエータセメント

もし，小さな穴があいて水漏れしたような場合は，クボタラジエータセメントで止まります。水漏れが激しい場合は販売店・農協に御相談ください。

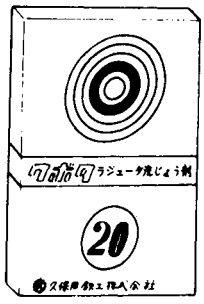


Z-1010

★ラジエータ洗浄剤

不凍液を混入したり，不凍液混入から水だけに換える場合は，ラジエータ内部を洗浄してください。洗浄にはクボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すると，たまった水あかがきれいに洗い落とせます。

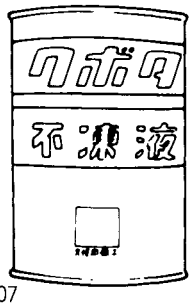
その他，水に赤さびが混入しているときに使用してください。



Z-1009

★不凍液

冷却水が氷結するとシリンダやラジエータを破損することがあります。気温が0℃以下になるようなときは使用後，冷却水を抜取るか，不凍液を混入してください。



Z-1007

(1)不凍液は，クボタ不凍液(ロングライフクーラント)を御使用ください。

(2)冷却装置の洗浄後はじめて不凍液を使用する場合は，ラジエータに2～3回清水を入れて，抜き捨てる操作を繰返し，内部を洗浄します。

(3)不凍液の場合は，気温によって異なりますので，使用の際は，使用量，使用方法などを販売店・農協に御相談ください。

ラジエータの冷却水有効容量

RH450	1.0ℓ
RH650 RH750 RH950	1.3ℓ

(4)不凍液の注入

不凍液は水とよく混合させてから入れてください。

(5)不凍液の補給

蒸発により減った場合は水だけ補給します。漏れた場合は，はじめの比率どおり不凍液を調合してから補給をしてください。

(6)不凍液は吸湿性がありますから，使用後容器のふたは完全にしめて保管してください。

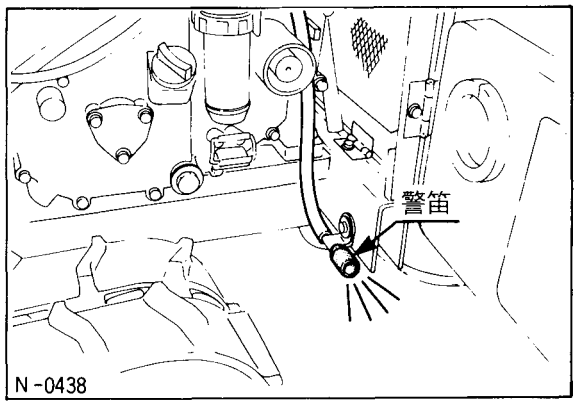
警笛が鳴った場合【RH450・650・750・950仕様】

安全ポイント

●エンジン停止後10分以上して，冷えてからラジエータキャップを外してください。すぐに開けると，熱湯が吹出してやけどをします。

エンジンが過熱した場合に警笛が鳴ります。
警笛が鳴った場合，又は警笛より水や蒸気が出てきた場合は，すぐに作業を中止し，エンジンを止め，次の点検・整備を行なってください。

(1)防じんカバーとラジエータフィンのワラくずやゴミを取除く。(32ページ参照)
(2)ラジエータが冷えてから，ラジエータとリザーブタンクに冷却水を規定量まで補給する。(32ページ参照)
(3)ファンベルトがゆるんでいないか点検する。(41ページ参照)
(4)ラジエータ水管の中に，水アカがたまっていないか点検する。
(5)冬期でないときに，不凍液が入っている場合は清水と交換する。



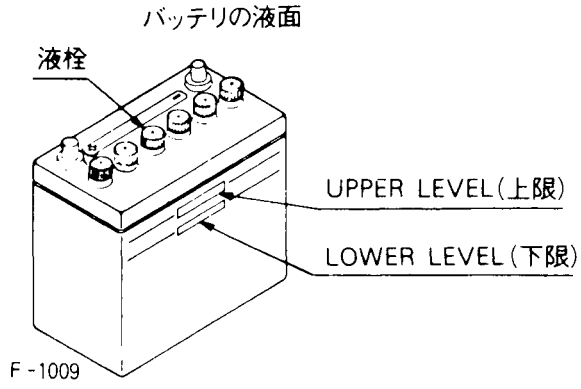
バッテリの取扱いと保守

安全ポイント

(1)エンジンは，必ず停止してから行なってください。
(2)バッテリ液が身体や服に付かないようにしてください。(バッテリ液は希硫酸ですので，ヤケドをしたり衣服に穴が開いたりすることがあります)
もし，身体や衣服に付いたときは，すぐに水洗いしてください。
(3)バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

★電解液について

バッテリの電解液が液面線にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充して液面をいつも正しく保ってください。



注意

(1)電解液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
(2)電解液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸，井戸水，泥水などは絶対に入れないでください。
(3)精製水を多く入れ過ぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
(4)エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。
(5)使用しているバッテリの型式は，

RH400・500・450仕様……
「26A19L(12N24-3)」
(容量20時間率，26Ah)
RH650・750・950仕様……
「36B20L(NS40ZL)」
(容量20時間率，35Ah)

です。
指定外のバッテリは使用しないでください。

バッテリの取扱いと保守

★充電方法

充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。

充電は,バッテリの⊕を充電器の⊕に,バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通の充電法で行なってください。

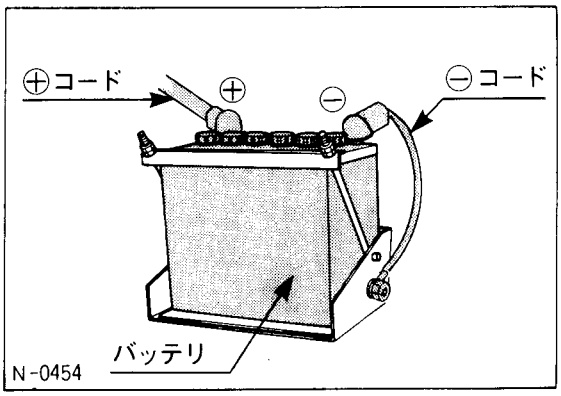
急速充電法は，放電状態にあるバッテリを短時間でその放電量の幾分かを補うために，大電流で充電する方法です。この方法は応急的な処置として行なうものですから，急速充電法で充電した場合には,作業が終わったらなるべく早く，急速充電器の取扱い方法に従って，正しく補充電をしておかなくてはなりません。補充電をしておかないと，バッテリの寿命は極端に短くなります。

★バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからリード線を外す場合は，必ず⊖側アース線から外してください。(逆にすると,工具などが接触したときショートします)

(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，最後に⊖側を接続してください。(逆にすると，工具などが接触したときショートします)

(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，バッテリと電気系統が故障します。



▶バッテリは次の時間ごとに点検・整備を行なってください。

項目＼時間	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500
バッテリ液の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

安全ポイント

(1)点検・交換をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

(2)ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

▶もし怠ると……

火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの被覆は,各部の角に接触,ネズミのかじりなどにより,損傷したり自然劣化することがありますので，下記項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。

(2)ターミナル・ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

電気配線の点検，ヒューズの交換

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

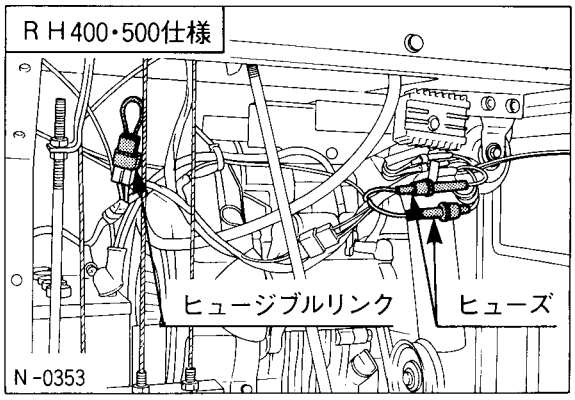
注意

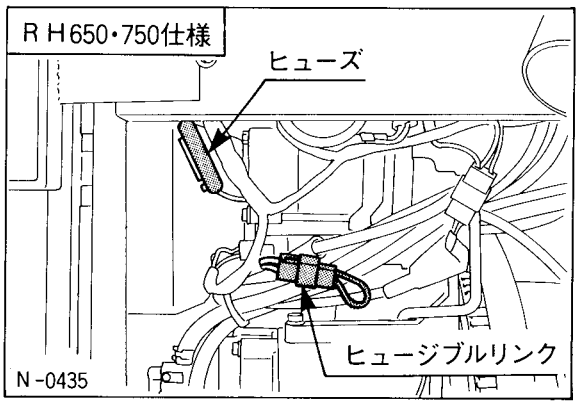
●ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店か農協で点検，修理してください。

★ヒューズの交換

❶ヒューズを外す。

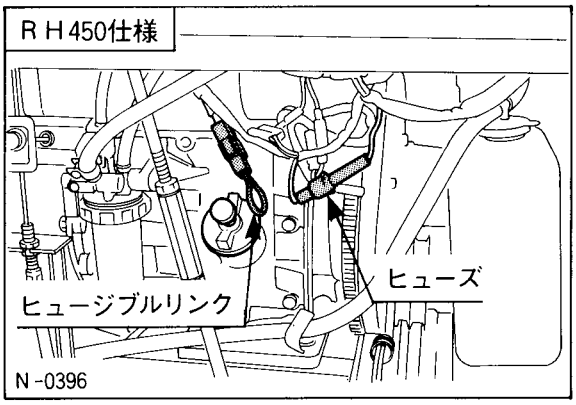
❷切れたものと同容量のヒューズと交換する。

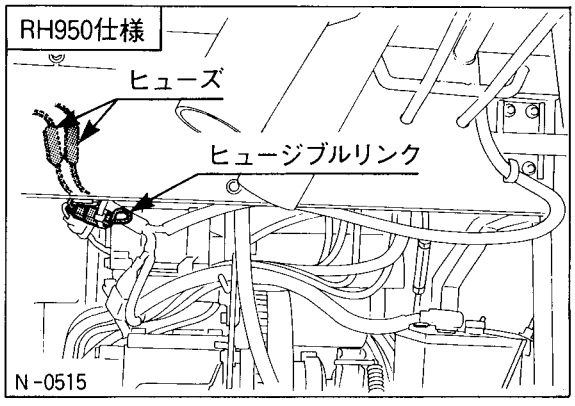




★ヒュージブルリンクの交換

ヒュージブルリンクは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。





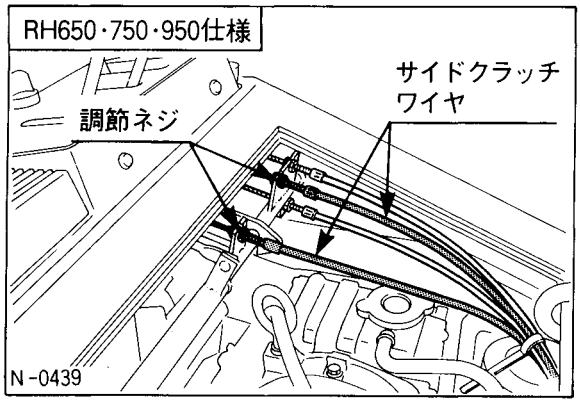
★サイドクラッチワイヤ左右の張りかた

❶サイドクラッチレバーのあそびが多くなったら，サイドクラッチワイヤの調節ネジを下方へ調整してください。

レバーのあそび

5㎜以上……サイドクラッチレバーを引いても旋回しません。

0㎜以下……サイドクラッチの爪(ミッションの内部)が外れ，動かなくなります。



★ブレーキワイヤの調整

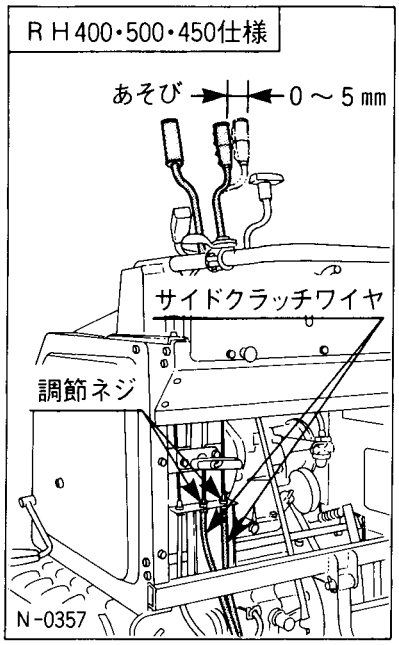
(走行クラッチと連動のため，調整ミスのないよう気をつけてください。)

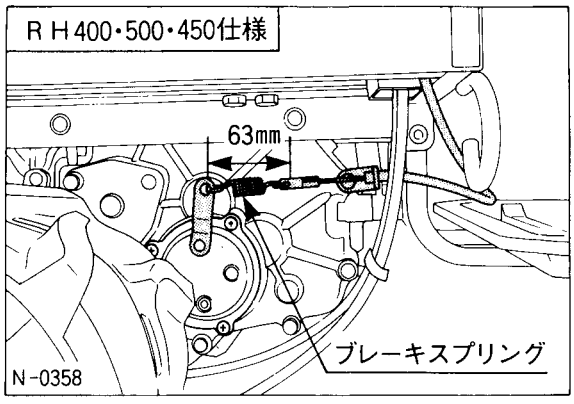
❶走行クラッチを「切」(RH400・500・450仕様)又は「ブレーキ」(RH650・750・950仕様)にしたとき，ブレーキスプリングが63㎜になるように，ブレーキワイヤ調節ネジを下方へ調節してください。

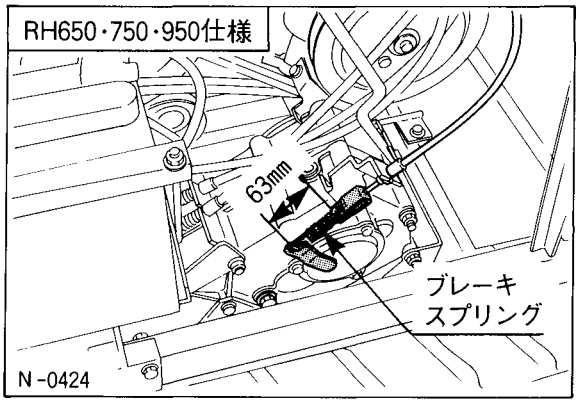
63㎜以下……ブレーキがきかなくなります。

63㎜以上……走行クラッチが切れない間にブレーキが早く入り，走行ベルト，ブレーキシューが早くいたみます。

❷調整後は，ロックナットを確実に締付けてください。



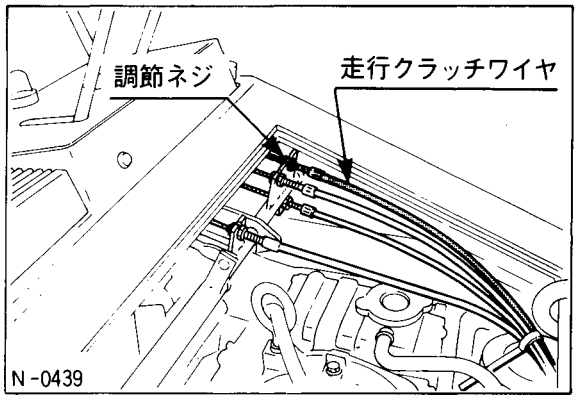




ワイヤの調節

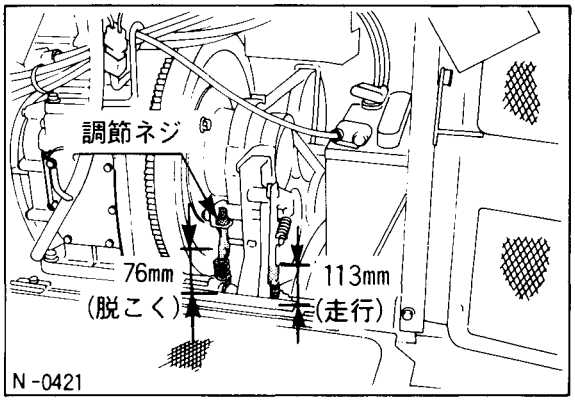
★走行クラッチワイヤの張りかた【RH650・750・950仕様】

走行ベルトがスリップするときは，走行クラッチレバーを「入」にして，走行テンションスプリングが113mmになるように，走行クラッチワイヤ調節ネジを下方へ調節し，ロックナットを確実に締付けてください。



★脱こくクラッチワイヤの張りかた【RH650・750・950仕様】

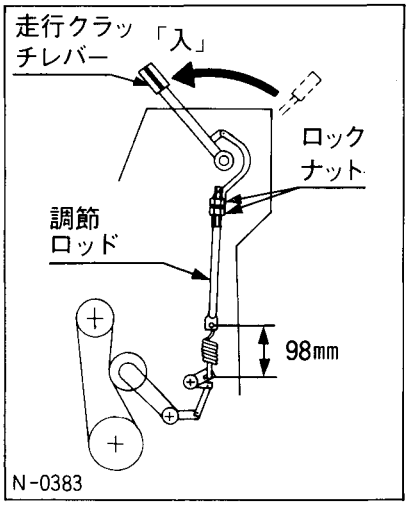
エンジン→カウンタベルトがスリップする場合は，脱こくクラッチレバーを「入」にして脱こくテンションスプリングが76mmになるように張り，ボルトを調整してください。



各部ベルトの張り調整

★走行ベルトの張りかた【RH400・500・450仕様】

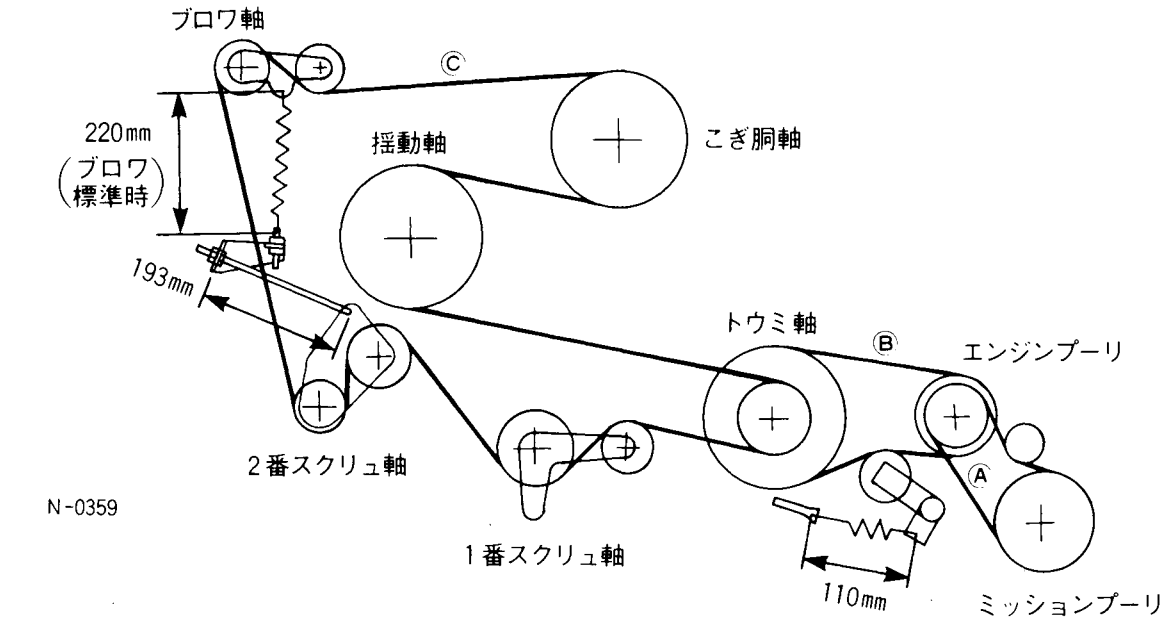
走行ベルトがスリップするときは，走行クラッチレバーを「入」にして，走行テンションスプリングが98mmになるように，走行テンションロッドを上方に締込んでください。



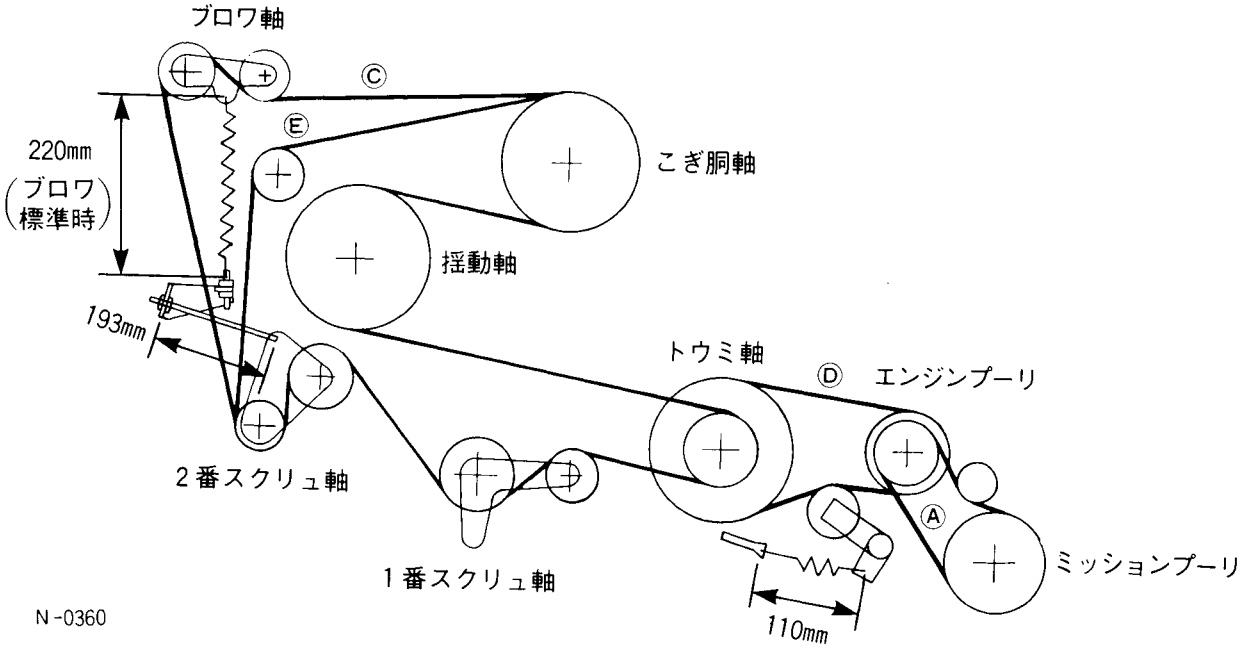
★脱こくベルトの張りかた

脱こく駆動ベルトがスリップするときは，脱こくクラッチレバーを「入」にして各スプリングを下記図に合せて張りボルトで調節してください。(RH400・500・450仕様はテンションスプリングが110mmになるように張りボルトで調節してください)

●RH400・450仕様



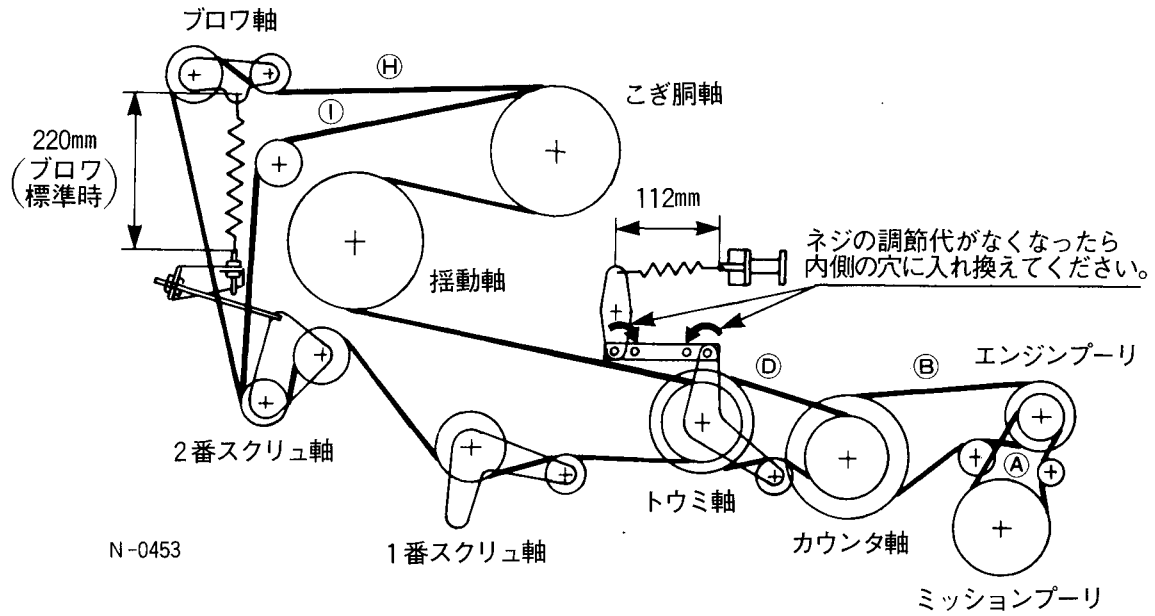
●RH500仕様



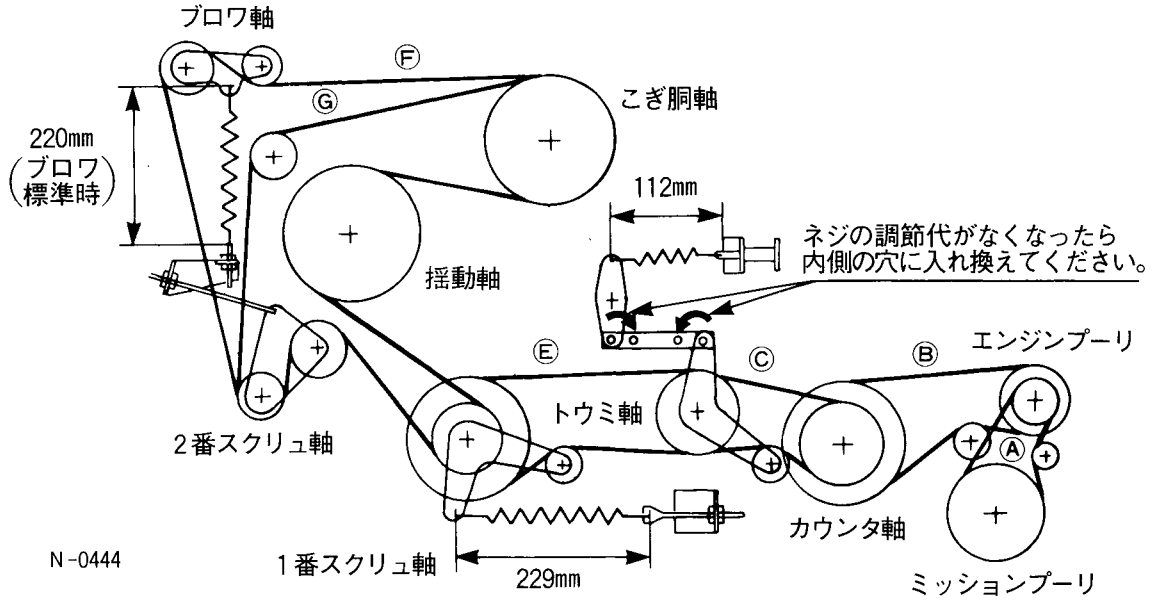
	RH400	RH500	RH450
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B43		Ⓐ特B37
エンジン↔脱こく	Ⓑ特B56 ホワイトイエロ	Ⓓ特C56 ホワイトイエロ	Ⓑ特B62
脱こく	Ⓒ特B165	Ⓒ特B165 Ⓔ特B153	Ⓒ特B165

各部ベルトの張り調整

● RH650仕様



● RH750・950仕様



	RH650	RH750	RH950
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B39		
エンジン↔カウンタ	Ⓑ特C49.5		
カウンタ↔トウミ	Ⓓ特B44	Ⓒ特C40	Ⓒ特C39.5
トウミ↔1番スクリュ軸	——	Ⓔ特C53	
脱こく	Ⓗ特B165，Ⓘ特B153	Ⓕ特B133，Ⓖ特B120	

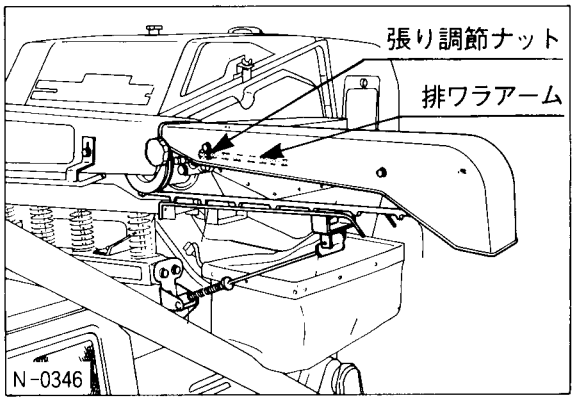
各部ベルトの張り調整

★排ワラベルトの調整

長時間使用すると，排ワラベルトが伸びてきますので，セットボルトを緩め，排ワラアームをナットにてベルトを張ってください。
張り調整後はセットボルトを締付け，ロックナットで確実に固定してください。

注意

- **張りすぎますと，アームが曲ってしまいますので，張りすぎには注意してください。**

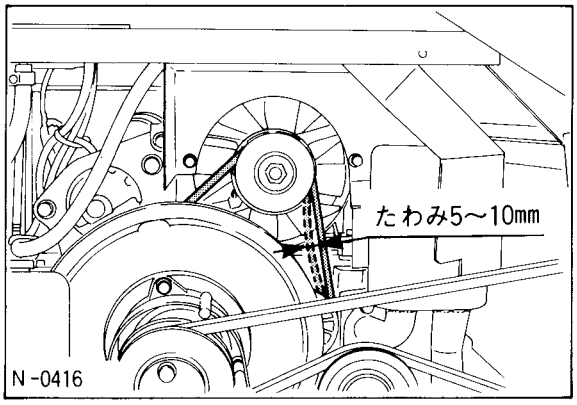


★ファンベルトの点検・調整【RH450・650・750・950仕様】

ファンベルトは，プーリとプーリの間を指で押えて５～10㎜たわむ程度に張ってください。
張るときは，ボルトを緩め，ドライバなどでベルトを張ってから，ボルトを固く締付けてください。

注意

(1)ベルトの張りが弱いまま運転すると，ベルトがスリップし，エンジンの冷却能力が低下するだけでなく,寿命を短くするので,常に点検して適当な張りを保ってください。
(2)ファンベルトが切れた場合は，切れてからしばらくするとラジエータ内の蒸気が噴出し続けます。このときはすみやかにエンジンを停止してください。



安全ポイント

- **ファンベルトの点検・調整をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。**

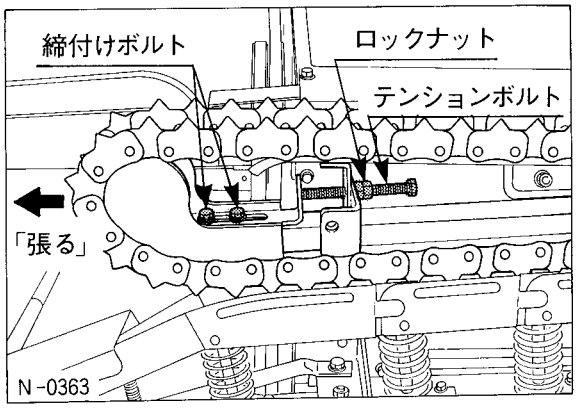
チェーンの調整

★チェーンの張りかた

❶案内パイプを外す。
❷チェーンカバーを外す。
❸テンション締付けボルトを緩める。
❹ロックナットを緩め，テンションボルトを張る。(チェーンを張る)
❺ロックナット及びテンション締付けボルトを締め，チェーンカバーと案内パイプを取付ける。

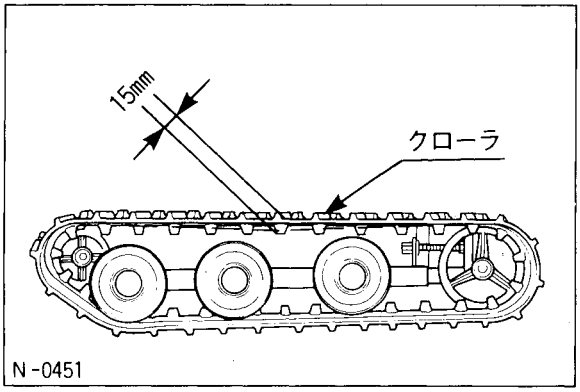
注意

- **フィードチェーンがゆるんだ状態で使用すると，チェーンがスプロケットに乗り上げたりして故障の原因になります。**



★クローラの点検

クローラの自重で15㎜以上のたわみになったら調節してください。



注意

(1)左右のクローラの張り強さは，必ず同じになるように調節してください。

(2)ロックナットを締め忘れると走行中にクローラが緩んできて危険です。

【RH400・500・450仕様】

(3)ベータピンと回り止め板をつけ忘れると走行中にクローラが緩んできて危険です。

【RH650・750・950仕様】

★クローラの張りかた

❶ロックナットを緩める。

【RH400・500・450仕様】

❶テンションボルトに組付けているベータピンと回り止め板を外す。

【RH650・750・950仕様】

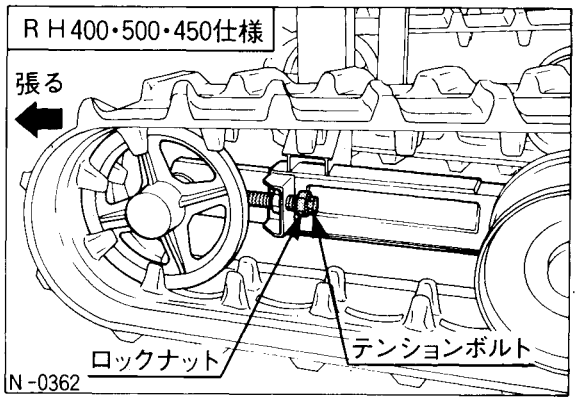
❷テンションボルトを，スパナで回してクローラを張ります。

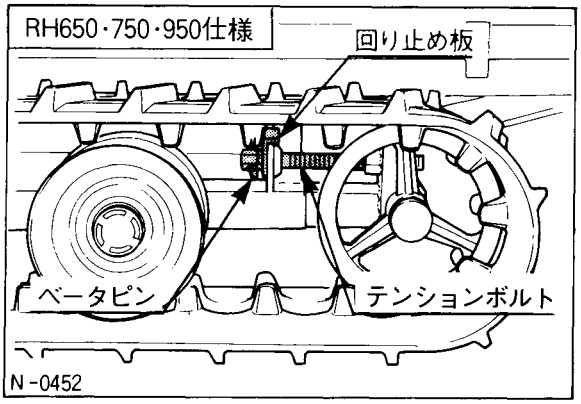
❸ロックナットを確実に締付ける。

【RH400・500・450仕様】

❸回り止め板を取付け，ベータピンを差し込む。

【RH650・750・950仕様】

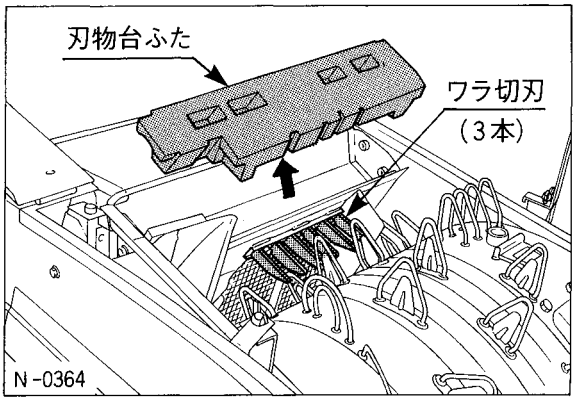




ワラ切刃の交換

★ワラ切刃の交換のしかた

❶脱こく部のこぎ胴カバーを外す。
❷刃物台のふた(発泡スチロール製)を取る。
❸ワラ切刃締付けボルト・ナット(M8)を緩めてワラ切刃を外す。
❹取付けは,ボルト・ナット(M8)を確実に締付けてください。

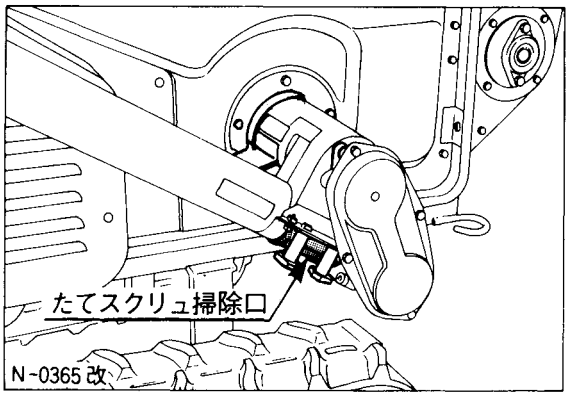


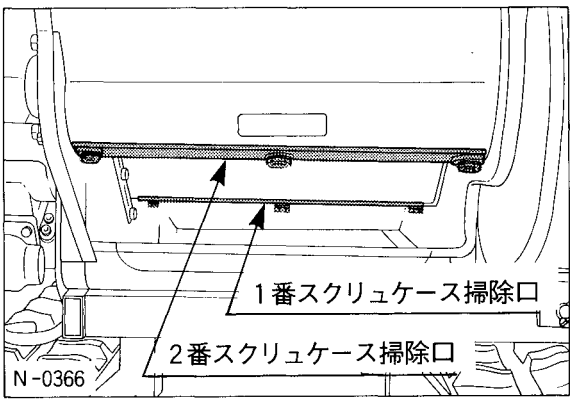
★こぎ胴ワラ切刃の研摩

ワラ切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するワラくずを細かく切断できなくなるため，ワラくずの移動が悪くなり，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたワラくずがブロワに吸引されにくくなって，２番スクリュに巻付いたり，２番スロワに詰まったりしますので,50～100アール使用ごとに研摩をしてください。
研摩はワラ切刃を外して行なってください。

機内の掃除のしかた

品種混合を避けたいときや，収穫シーズンが終ったときには，機内の残留穀粒をきれいに取除いておきましょう。
お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ，電気掃除機を使用すれば，きれいに掃除できます。





長期格納のしかた

安全ポイント

●掃除は平たんな場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。

ハーベスタをいつまでも長持ちさせ，性能を低下させないために，使用後は必ず掃除と手入れをしてください。

■各部の清掃

安全ポイント

●手入れは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

(1)各部に付着した雑草やワラくずを完全に取除き泥などの汚れを水できれいに洗い落とし，そのあと水分が残らないようにふき取っておきます。水洗いのときには脱こく機内部に水が入らないように注意してください。

(2)各回転部分，摩擦しゅう動部分，サイドクラッチレバー支点及び各チェーンなどは，きれいに清掃したあと充分注油して，さびたり，硬着したりしないようにしてください。

(3)脱こく機各部に，こく粒やワラくずが残っているとネズミが入り込むのできれいに取除いてください。

(4)摩耗のはげた所には補修塗料を塗って，さびがでないようにしてください。

(5)摩耗がひどくて取換える必要のある部品は，販売店・農協に連絡して修理，交換してください。

■エンジン関係

(1)部屋に格納しようとするときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。

(2)クランクケース内のよごれたエンジンオイルを排出し，新しいオイルを入れ，5分間エンジンを空運転させ，各部にオイルをゆきわたらせてください。

(3)各部に付いたワラくず，雑草を取除いてください。特に気化器とマフラ，及びシリンダヘッド，リコイルスタータ，スタートハンドルに付いたワラくずは完全に取除いてください。

(4)エアークリーナを掃除してください。

(5)燃料タンク内の燃料を抜き，燃料フィルタを掃除してください。

(6)エンジンは，アクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。

(7)作業終了後，格納の際は必ず燃料コックレバーを「閉」(S)の位置にしてください。

(8)点火プラグ穴よりエンジンオイルを約10cc注入し数回空転後，点火プラグを取付け，スタータを引いて圧縮のある所で止めてください。

【RH400・500仕様】

(9)不凍液をいれていないときは，冬期気温が，0℃以下になるとエンジンの凍結割れが生じますので，必ず冷却水を抜取ってください。

シリンダヘッド下部にある冷却水コックを開き，圧力キャップを外して完全に冷却水を排出し，冷却水コックは開いたままにしておき，圧力キャップに「水なし」と書いた札をかけておくと次に使用するときに給水を忘れません。

【RH450・650・750・950仕様】

注意

●冷却水コックは開いたままにしておいてください。上の方に水がたまって完全に抜けていないことがあります。【RH450・650・750・950仕様】

(10)リザーブタンク下のバンドをゆるめてパイプを抜取り，リザーブタンクの水を抜いてください。また，同時にパイプの水も抜いてください。水が完全に抜けたら，パイプをリザーブタンクに充分押込み，バンドがタンクのパイプ部分にかかる位置で締付けてください。【RH450・650・750・950仕様】

(11)ほこりを防ぐため，カバーをし，場所は湿気やほこりのない所を選んでください。

エンジンのシリンダ内に湿気が入りますと，来季での始動が非常に困難となりますので，リコイルスタータ及びスタートハンドルは圧縮位置にしておいてください。

■その他

(1)メインスイッチのキーは，抜取って保管してください。

(2)バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は1カ月に1回，冬は2カ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは，必ずアース側(⊖側)を外してください。

(3)脱こくクラッチレバーは「切」にしてください。

(4)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおってください。

(5)マフラ，エンジンが冷えてからシートをかけてください。

注意

(1)機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

(2)整備がすむとカバーを掛けて，ほこりの少ない乾燥した場所に格納してください。

■エンジン点検・調整表【RH450・650・750・950仕様】

●補給　▲検査　■掃除

番号	項目	運転時間				
		毎日	50時間	100時間	300時間	1,000時間
1	ラジエータ	▲●				
2	クランクケース	▲	■	■		
3	オイルフィルタ		■			
4	フューエルフィルタ			■		
5	送油管		▲			
6	防じんカバー	■			■	
7	エアークリーナ(ペーパエレメント式)	※	▲	■		
8	軸受，ヘッド，ポンプなどの締付部点検			▲		
9	バルブクリアランス			△		
10	エキゾーストバルブすり合せ				□	
11	インレットバルブすり合せ					□
12	シリンダ					□
13	ピストン					□
14	インジェクションポンプ					△

△，□印の項目については販売店・農協に御依頼ください。

※特にゴミ，ほこりの多いときは適時。

ハーベスタ⇄運搬車への切換え〔運搬車仕様付〕

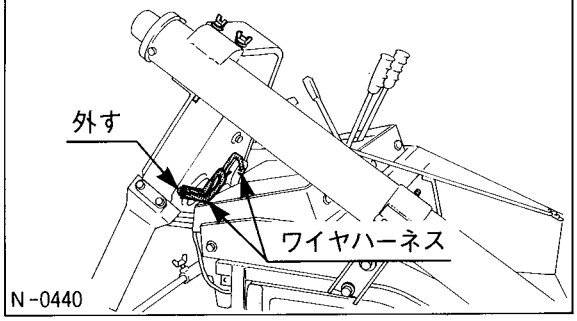
安全ポイント

(1)脱こく機の積降ろしは，平たんで安全な場所で行なってください。
(2)脱こく機，及び各部の着脱作業は，エンジンを必ず停止してから行なってください。
(3)脱こく機の積降ろしは,ひとりでできますが,無理と判断した場合は補助者をつけて,行なってください。
(4)脱こく駆動ベルトは，必ず取外して運搬作業を行なってください。

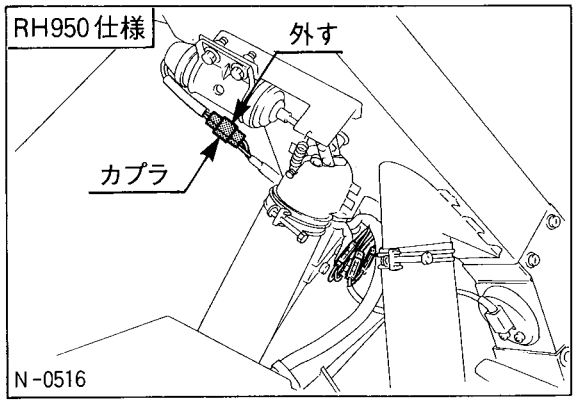
脱こく機の降ろしかた

❶配線を外す。

RH400・500・450・650・750仕様

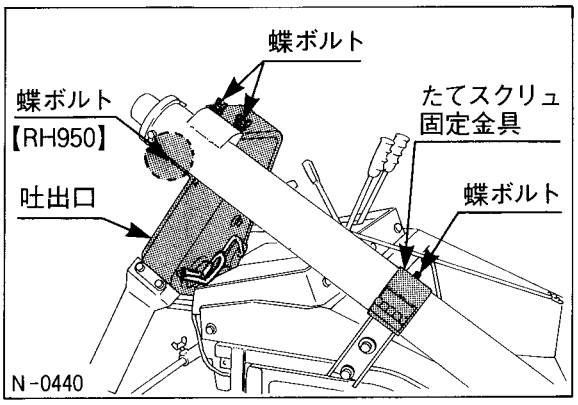


RH950仕様



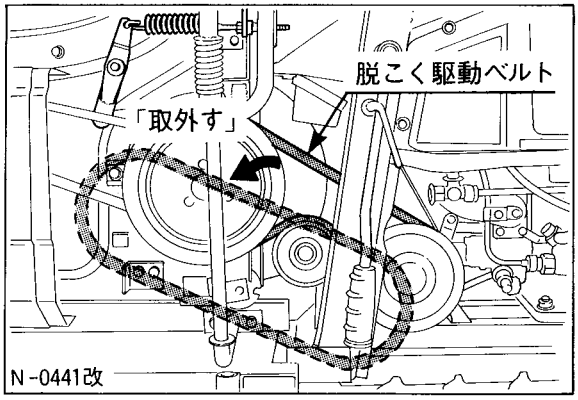
❷吐出口の蝶ボルト(RH400・500・450・650・750仕様は2本，RH950仕様は3本)を外し，吐出口を取外す。

❸たてスクリュ固定金具の蝶ボルトを外して開ける。

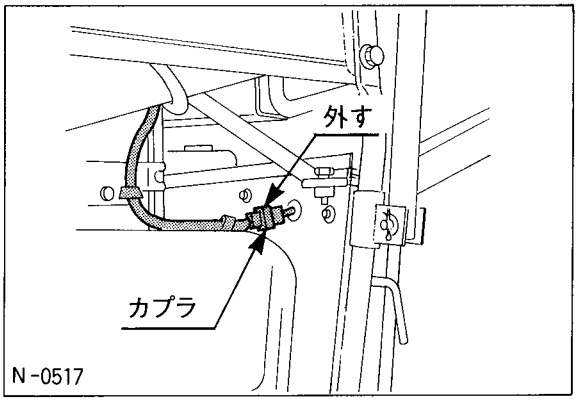


❹脱こくプーリカバーを外し，ハンドル左カバーを開けてベルトを取外してください。

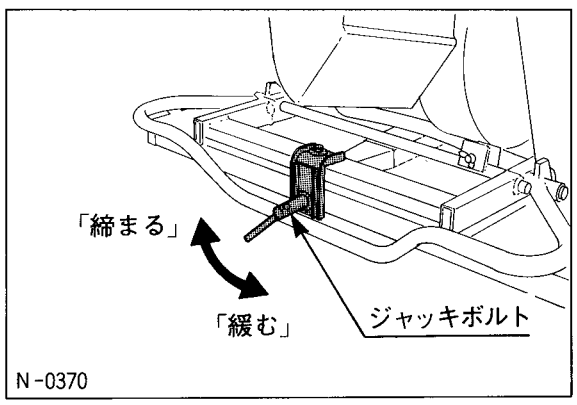
【RH650・750・950仕様】



❺ワイパモータの配線を外す。【RH950仕様】

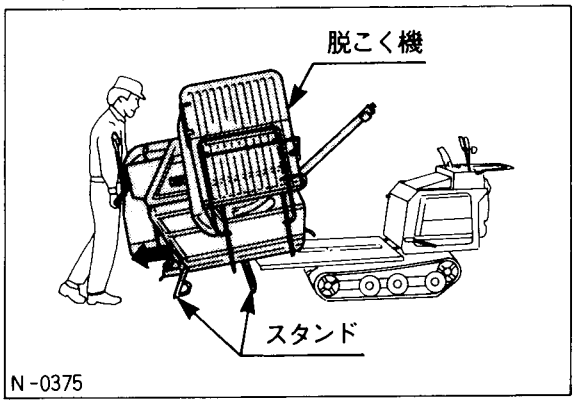


❻ジャッキボルトを緩める。

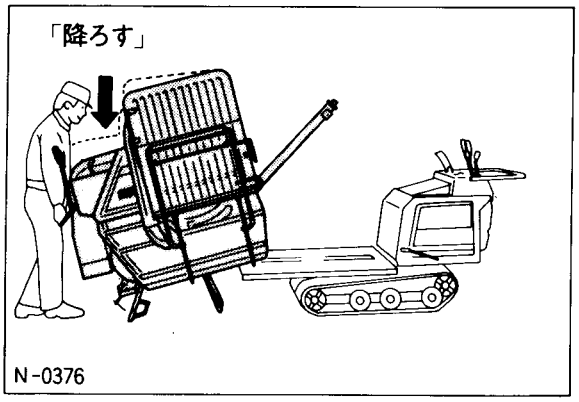


脱こく機の降ろしかた

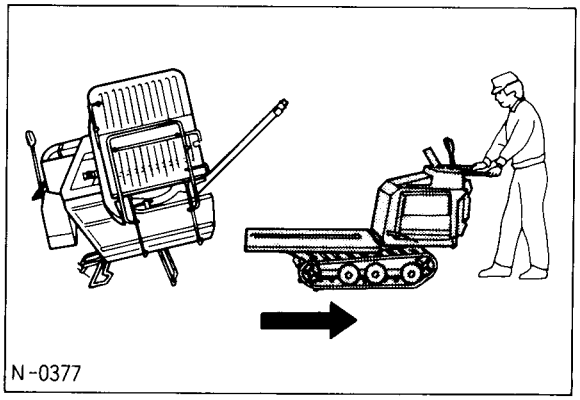
❼脱こく機を前に引出す。スタンドが「前」「後」共，自動的に出る所まで出します。



❽スタンドが出たら，ゆっくり下に降ろしてください。

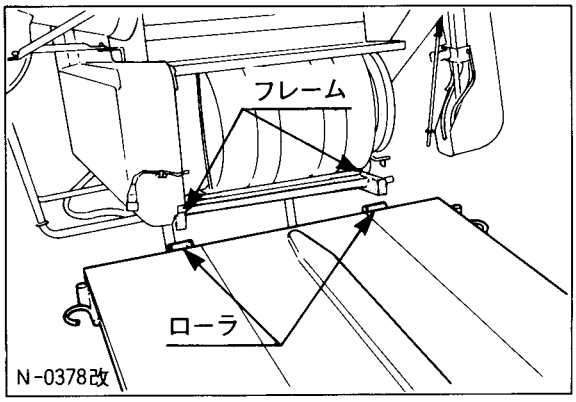


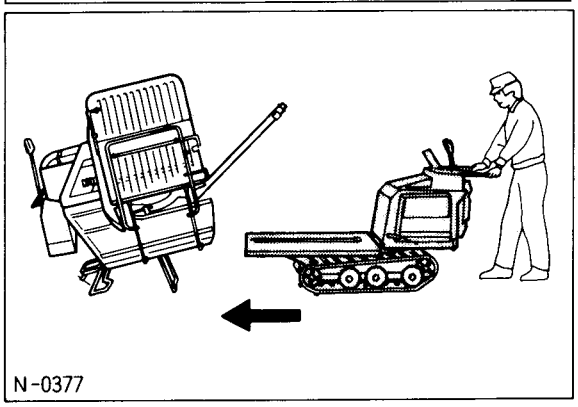
❾本機のエンジンをかけ，バックしてください。



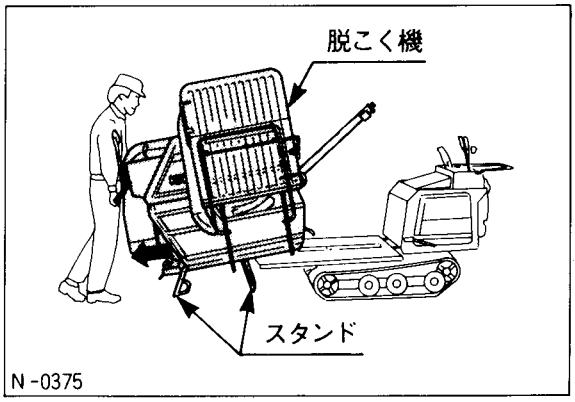
脱こく機の積みかた

❶脱こくフレームに本機ローラの位置を合せて，当るまで入れてください。

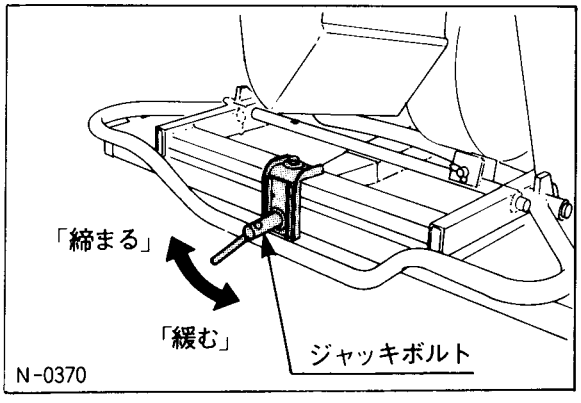




❷脱こく機を押込んでください。

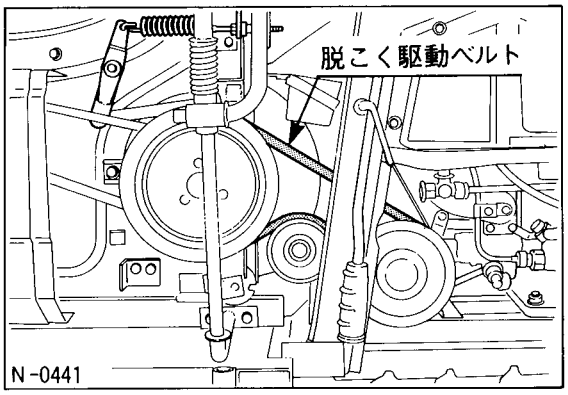


❸ジャッキボルトをしっかり締めてください。



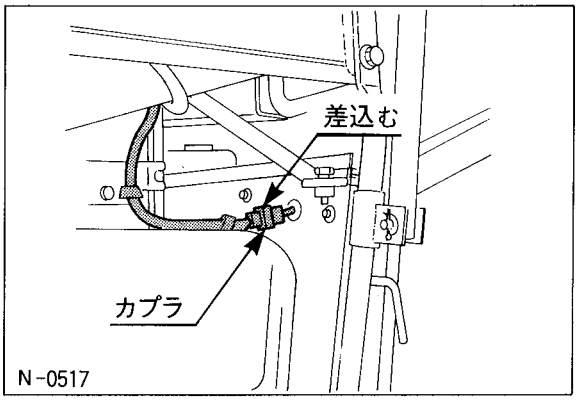
❹脱こく駆動ベルトを入れ，カバーを取付けてください。【RH400・500・450仕様】

❹脱こく駆動ベルトを入れ，脱こくプーリカバーを取付けハンドル左カバーを閉めてください。【RH650・750・950仕様】



❺ワイパモータの配線を差込んでください。

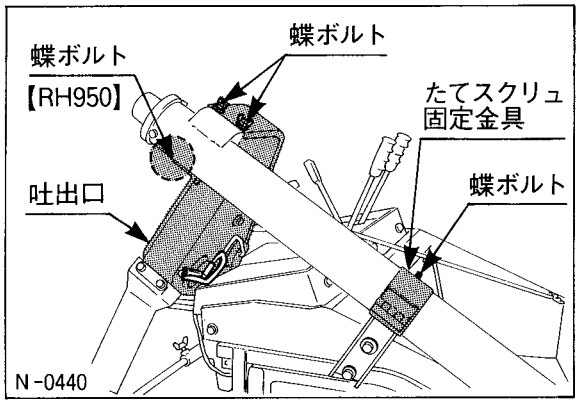
【RH950仕様】



注意

●配線方向に注意してください。

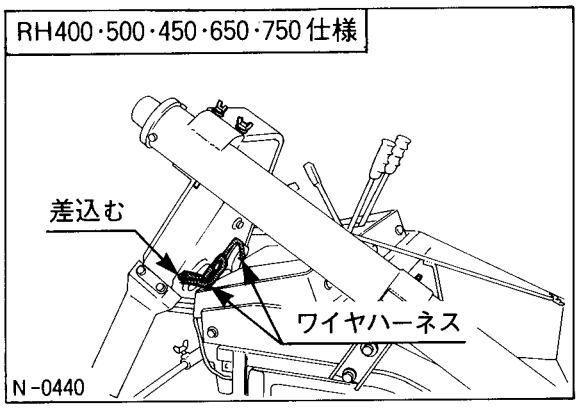
❻蝶ボルトで，たてスクリュ固定金具と吐出口（RH400・500・450・650・750仕様は2本，RH950仕様は3本）を取付けてください。

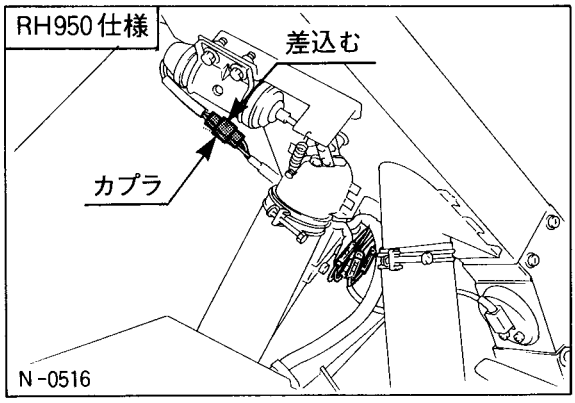


❼配線を差込んでください。

注意

●もみセンサへのワイヤハーネスは確実に取付けてください。
もし逆に取付けた場合，吐出口のシャッタが作動しません。





荷台枠の取付け

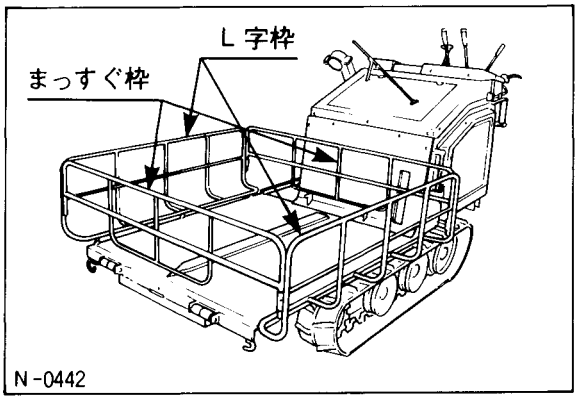
【荷台枠はオプション】

❶荷台枠は４本１組になっています。

❷L字形の枠(２本)を，本機フレームのパイプに差込む。

❸まっすぐな枠(２本)は，L字形の枠に付いているパイプに差込み，ベータピンで抜け止めをしてください。

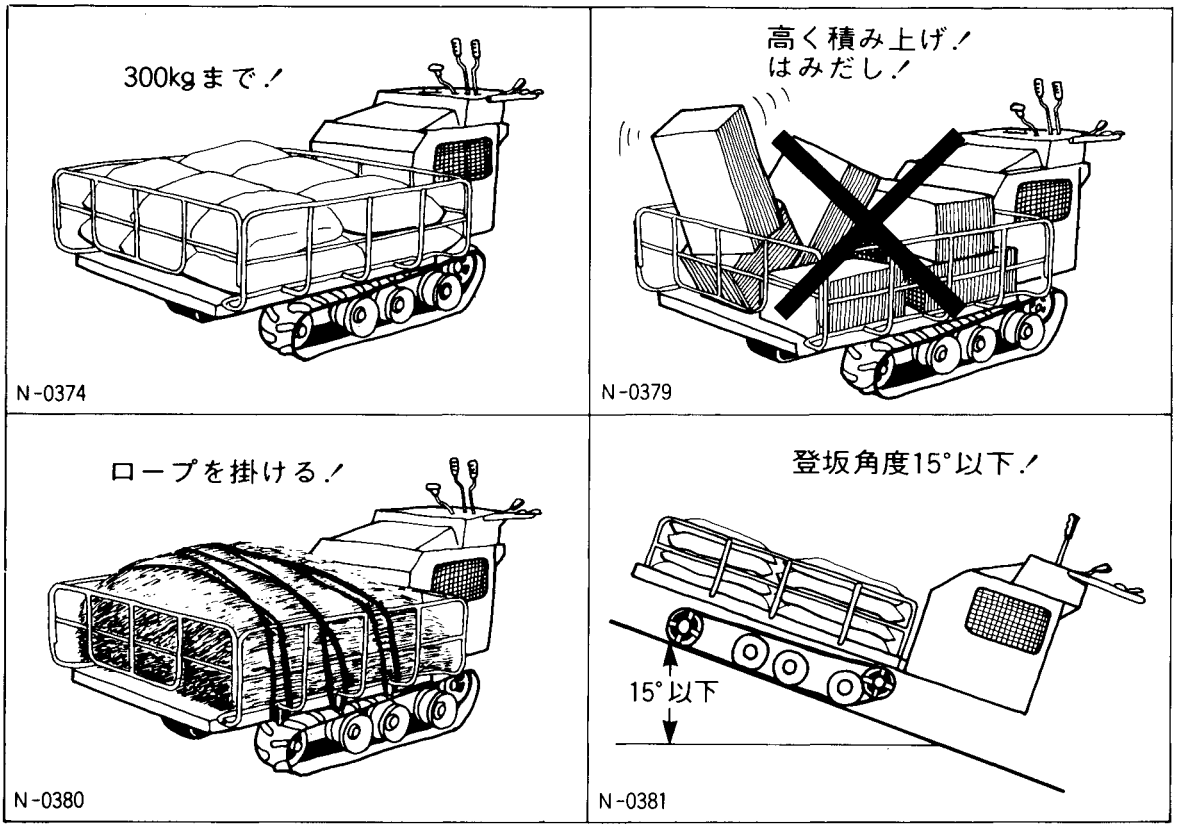
❹荷台枠全体が浮き上っていないか確認する。



運搬作業

安全ポイント

(1)最大積載量は300kgです。
(2)運搬車としての用途は農作業用に限ります。(土木用ではありません)
(3)重量が規定以内でも,絶対に高く積み上げたり,異常に長くはみ出さないようにしてください。
(4)不安定な品物を積載する場合は，ロープを必ず掛けてください。
(5)登坂角度は15°以下を守ること。



付表

主要諸元

			RH400	RH400-S	RH400-D	RH500	RH500-W	RH500-S	RH500-D	RH500-DW	RH500-DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2255								
		作業時	2770								
	全幅(mm)	格納時	1225								
		作業時	2435								
	全高(mm)	格納時	1400		1440	1400			1440		
		作業時	1290		1330	1290			1330		
	重量(kg)		345	355	385	350		360	390		400
エンジン	形式		GS230-2M	GS230-2M8	GS230-2M	GS280-2M		GS280-2M8	GS280-2M		GS280-2M8
	最大出力(PS/rpm)		4/1800			5.5/1800					
	排気量(cc)		226			276					
	始動方式(仕様)		リコイル	セル	リコイル			セル	リコイル		セル
	重量(kg)		17.5	20.5	17.5	25.5		28.5	25.5		28.5
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42								
	選別方式		揺動，圧風，吸引								
	揚穀方式		タテスクリュ								
	能率(a/hr)		8～15			10～15					
走行部	変速段数		前進2段，後進1段		前進3段，後進1段						
	クローラ接地長×幅(cm)		79×17				79×22	79×17		79×22	79×17
	接地圧(kg/cm²)		0.128	0.132	0.143	0.13	0.103	0.134	0.145	0.112	0.149
操作部	吐出口		2口切換式								
	ブロワ調節		無段(ネジ式)								
	稲麦切換		レリーズ調節								
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース，接続ケース								
	排じん筒調節		上下，左右								
	駐車ブレーキ		主クラッチ連動								
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)								
	円板カッタ(ドロカツ)		なし			有(オプション)					
	大束結束機		なし			有(オプション)					
ライト			有(オプション)								
運搬機能			なし		荷枠オプション300kg積	なし			荷枠オプション300kg積		

			RH450	RH450-W	RH450-S	RH450-D	RH450-DW	RH450-DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2255					
		作業時	2770					
	全幅(mm)	格納時	1225					
		作業時	2435					
	全高(mm)	格納時	1400			1440		
		作業時	1290			1330		
	重量(kg)		365	368	380	410	413	425
エンジン	形式		E40-MH		E40-MHB	E40-MH		E40-MHB
	最大出力(PS/rpm)		4/2600					
	排気量(cc)		212					
	始動方式(仕様)		リコイル		セル(リコイル付き)	リコイル		セル(リコイル付)
	重量(kg)		37		42	37		42
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42					
	選別方式		揺動，圧風，吸引					
	揚穀方式		タテスクリュ					
	能率(a/hr)		8～15					
走行部	変速段数		前進2段，後進1段			前進3段，後進1段		
	クローラ接地長×幅(cm)		79×17	79×22	79×17	79×17	79×22	79×17
	接地圧(kg/cm²)		0.13	0.105	0.137	0.15	0.12	0.16
操作部	吐出口		2口切換式					
	ブロワ調節		無段(ネジ式)					
	稲麦切換		替えプーリ式(エンジンプーリ)					
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース，接続ケース					
	排じん筒調節		上下，左右					
	駐車ブレーキ		主クラッチ連動					
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)					
	円板カッタ(ドロカツ)		有(オプション)					
	大束結束機		有(オプション)					
ライト			なし					
運搬機能			なし			荷枠オプション300kg積		

			RH650	RH650-S	RH650-D	RH650-DS	RH750-D	RH750-DS	RH950-S	RH950-DS
機体の大きさ	全長(mm)	格納時	2250						2325	
		作業時	2540						2615	
	全幅(mm)	格納時	1225				1315			
		作業時	2525				2615		2525	
	全高(mm)	格納時	1455						1350	
		作業時	1340						1350	
	重量(kg)		455	470	485	500	510	525	505	535
エンジン	形式		EA7-MH	EA7-MHB	EA7-MH	EA7-MHB	EA8-MH	EA8-MHB	EA8-MHB2	
	最大出力(PS/rpm)		6/2400				7/2400		8/2600	
	排気量(cc)		340				376			
	始動方式(仕様)		クランクハンドル	セル(クランクハンドル付き)	クランクハンドル	セル(クランクハンドル付き)	クランクハンドル	セル(クランクハンドル付き)	セルスタータ	
	重量(kg)		74	78.5	74	78.5	75	79.5	75	79.5
脱こく機	胴径×幅(cm)		42×42				42×51			
	選別方式		揺動，圧風，吸引							
	揚穀方式		タテスクリュ							
	能率(a/hr)		10～15				15～20		18～24	
走行部	変速段数		前進3段，後進1段							
	クローラ接地長×幅(cm)		85×20							
	接地圧(kg/cm²)		0.134	0.138	0.143	0.147	0.15	0.154	0.147	0.157
操作部	吐出口		2口切換式						2口＋2口オーバフロー自動切換式	
	ブロワ調節		無段(ネジ式)							
	稲麦切換		シム調節(カウンタ出力プーリ)							
	掃除口		1番・2番スクリュケース，タテスクリュケース							
	排じん筒調節		上下，左右							
	駐車ブレーキ		主クラッチ連動							
わら処理部	円板カッタ(単体)		有(オプション)							
	円板カッタ(ドロカツ)		有(オプション)							
	大束結束機		有(オプション)							
ライト			なし							
運搬機能			なし		荷枠オプション300kg積				なし	荷枠オプション300kg積

別途購入アタッチメント一覧表

品　番	品　名	型　式	適　応　機　種
57088-00000	円板カッタ	SH75R	RH400・500・450仕様の全機種
57098-00000		SH75RD	RH650・750・950仕様の全機種
57422-00000	円板ドロッパ	S601－75R	RH500仕様の全機種
57423-00000		S601－75R1	RH650・750・950仕様の全機種
57443-00000	大束結束機	HK－2R	RH500・450・650・750・950仕様の全機種
56341-9101-0	ライトアッシ	———	RH400･-D, RH500･-D･-W･-DW仕様
56342-9101-0		———	RH400-S, RH500-S･-DS仕様
56343-9110-0	荷台枠アッシ	———	RH400-D, RH500-D・-DS・-DW, RH450-D･-DS･-DW仕様
56363-9110-0		———	RH650-D・-DS, RH750-D・-DS, RH950-S・-DS仕様

クボタ純オイル

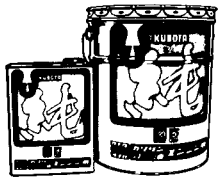
■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，ハーベスタの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルを御使用になりますと，あなたの大切なハーベスタの寿命を縮めることがあります。
お買求めは，販売店・農協又はコスモ石油，日本石油，共同石油，昭和シェル石油のスタンドに御用命ください。

●エンジンには……

■ クボタ純オイル

G30又はG20(4ℓ・20ℓ)
（ガソリン・灯油・エンジン用）



Z-1001

■ クボタ純オイル

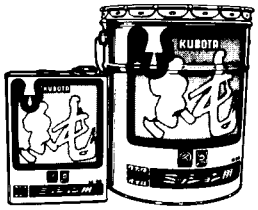
D10W30(4ℓ・20ℓ)
（ディーゼルエンジン用）

Z-1002

●ハーベスタ本体には……

■ クボタ純オイル

M90(4ℓ・20ℓ)(ミッション用)



Z-1004

●グリースアップには……

■ クボタ スペアグリース

60・100・400

Z-1005

ラットガード ロボロ純正品

ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛じる場合の習性は，かどの部分から噛じり始めます。決して平面部分から噛じり始めることはありませんので，かどの部分を重点的に**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- 電線・管などの断面積の円形のもの，又は細いものは2～3cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上から**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めに**ネズミよけ塗料**を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布後の有効期間は…

- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量(1カンで2.8m²)を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当るところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027

420mℓ

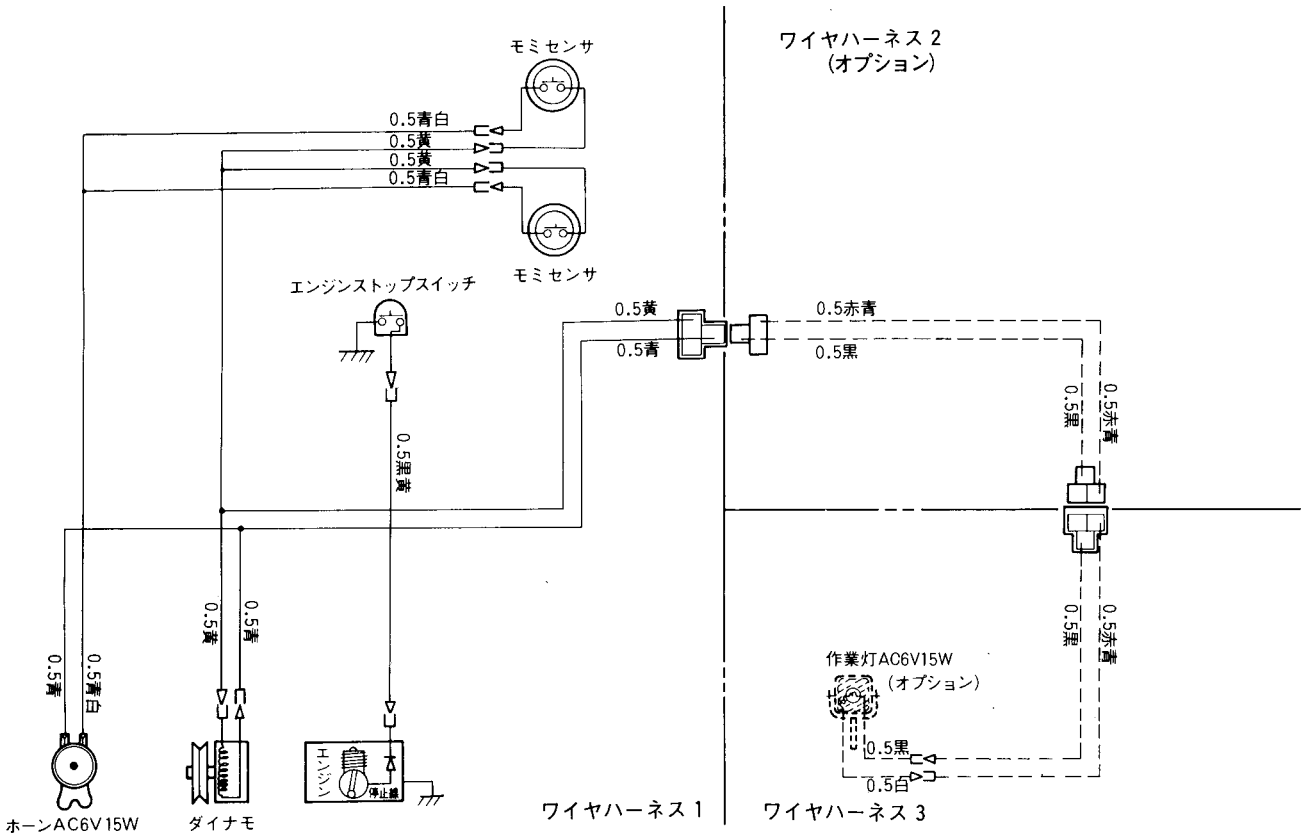
注意

(1)ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

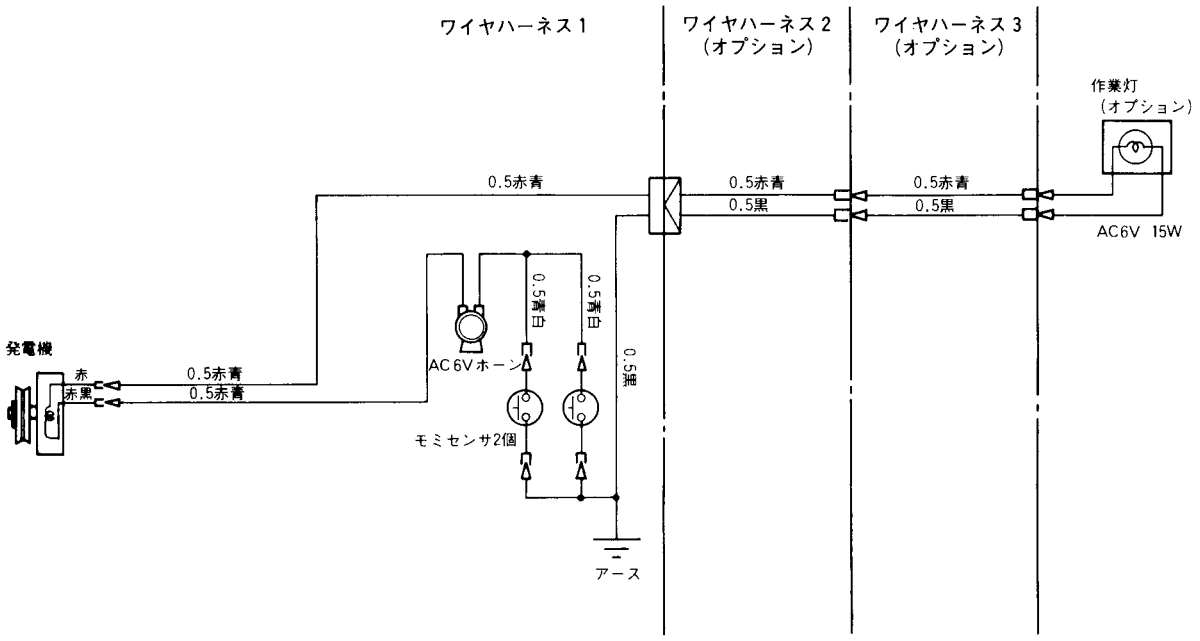
(2)ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

配線図

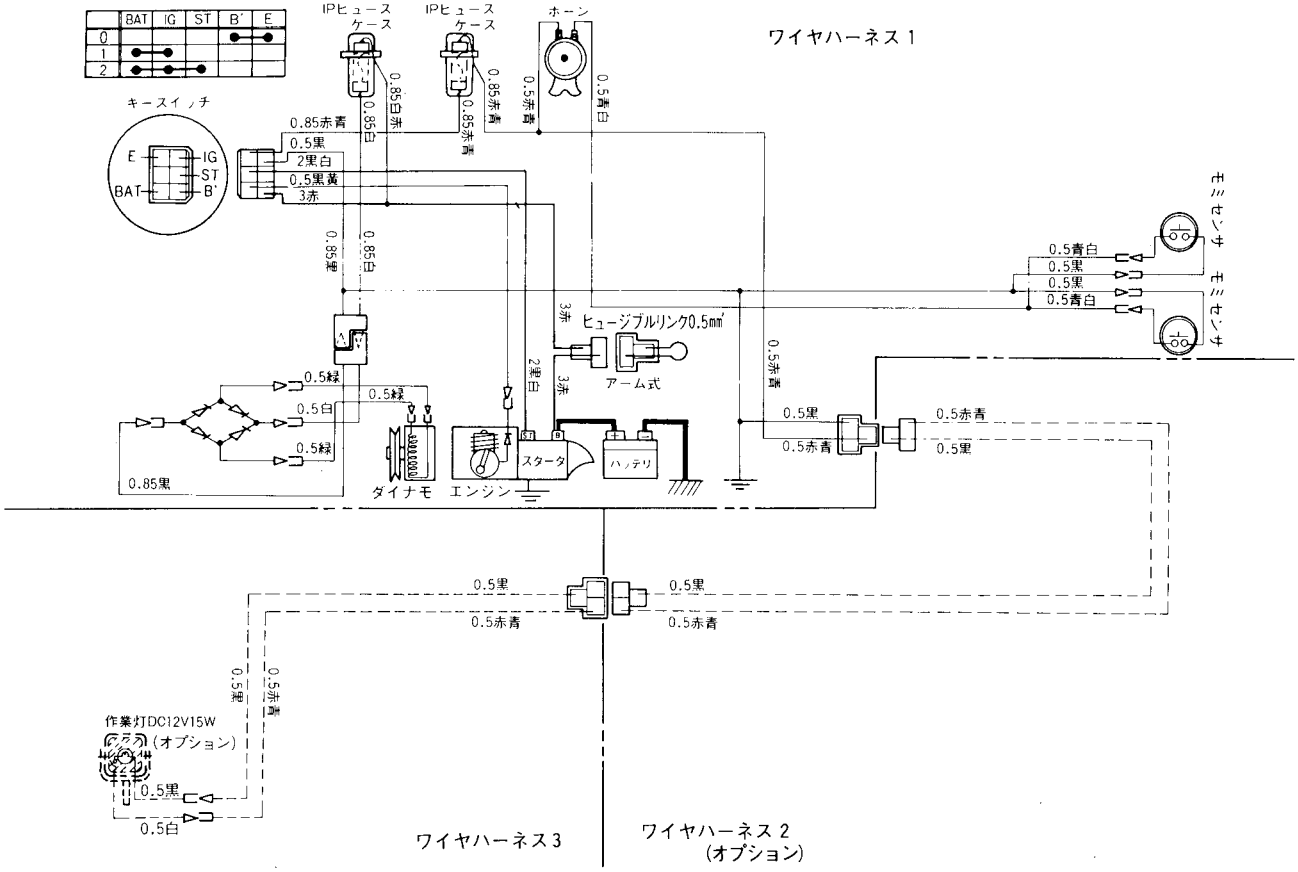
■RH400・500のリコイル仕様



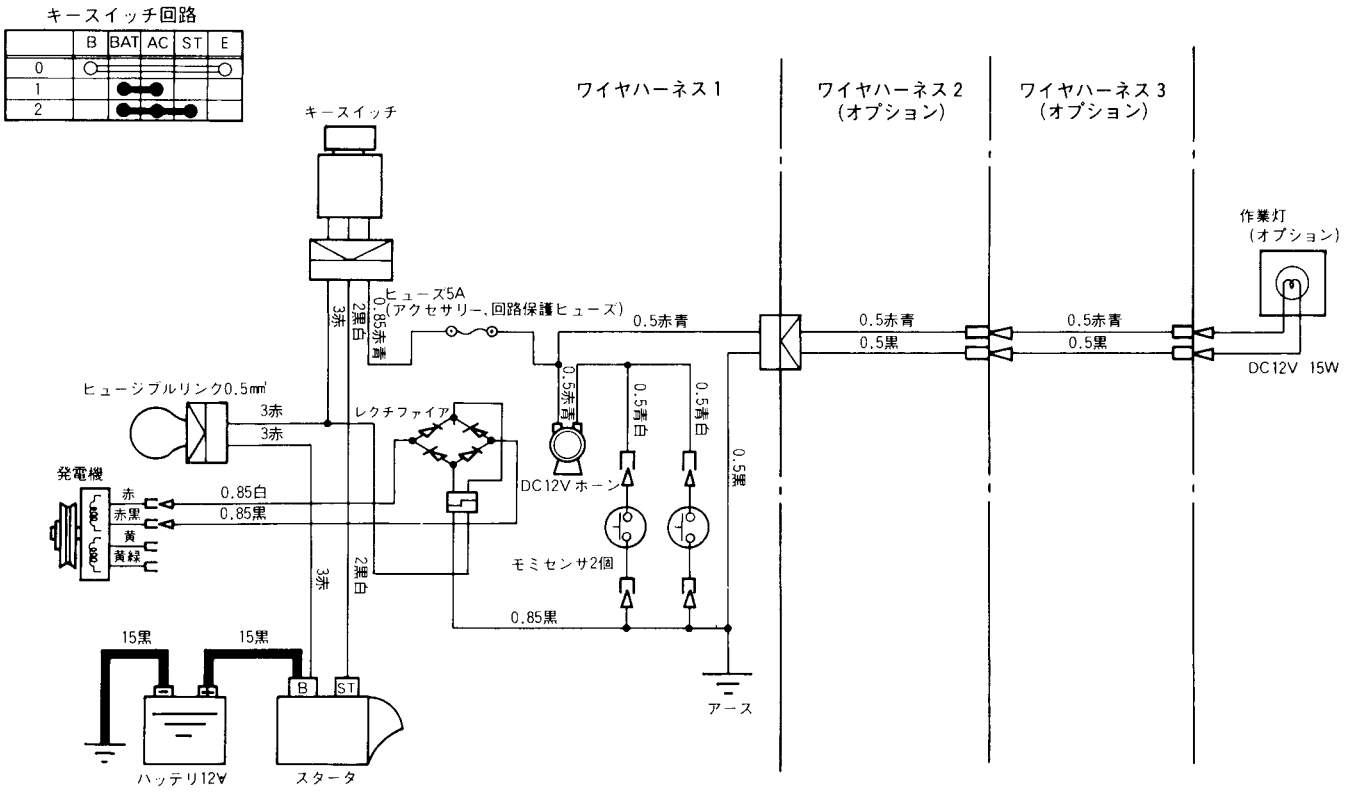
■RH450のリコイル仕様，RH650・750のクランクハンドル仕様



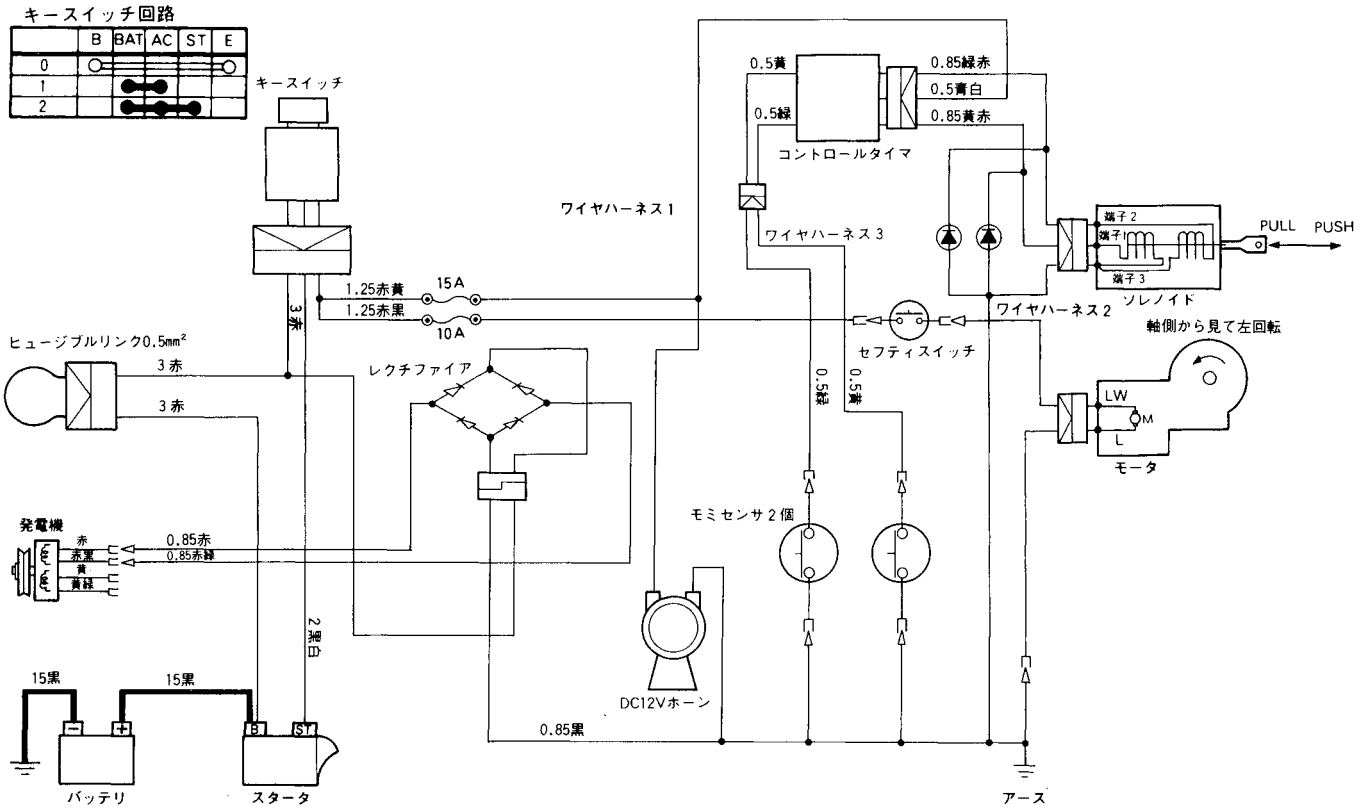
■RH400・500のセル仕様



■RH450・650・750のセル仕様



■RH950仕様



主な消耗部品一覧表〔RH950仕様〕

RH950仕様は，別冊として純正部品表が添付されておりませんので，主な消耗部品に関しては下記の部品一覧表をご参考ください。なお，詳細に関しては販売店・農協又は当社内燃機器支店にご相談ください。

■脱こく部

品　番	品　名	個 数
53713−1322−0	ワラキリハ	6
53567−2147−0	イタコキハ	28
53418−5614−0	フィードチェーン56リンク	1
53465−6112−0	イリグチヒサンボウシ	1
53468−6121−0	イリグチヒサンボウシ2	1
53243−2617−0	2バンスロワハネ	2
53415−2632−0	2バンスロワケースライナ	1
56501−3413−0	ハイワラベルト	1
53425−1232−0	デグチヒサンボウシ1	1
53425−1233−0	デグチヒサンボウシ2	1
53465−6172−0	デグチヒサンボウシ3	1
53478−5552−0	シャッタ	1

■電装品関係

品　番	品　名	個 数
54711−4122−0	10アンペアカンヒューズ	1
54711−4123−0	15アンペアカンヒューズ	1

純正部品を使いましょう

農業機械の補修には，
安心して御使用いただける純正部品を，お買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと，
機械の不調や，あなたの大切な機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは，
あなたの機械に一番よくマッチするように研究され，
厳重な検査を受けてから出荷されますので，安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと，
作業能率の低下やあなたの機械の寿命を短くする原因になります。

ハーベスタ取説
T. ☆. 16－27. 6. K

久保田鉄工株式会社

本　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)　648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)　245-3111
北海道支店	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)　214-3111
東北支店	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)　267-9000
中部支店	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)　564-5111
九州支店	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)　473-2401
内燃機器札幌支店	札幌市西区手稲東３北３丁目２番地２	〒063	電(011)　662-2121
内燃機器仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)　384-5151
内燃機器東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)　862-1121
内燃機器大阪支店	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)　648-2111
内燃機器岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)　79-4511
内燃機器福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)　606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)　41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)　61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)　5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)　40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)　45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)　63-6336
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)　376-2335
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)　2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)　40-1797

クボタアグリ グループ

㈱クボタアグリ東北 秋田	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)　45-1601
㈱クボタアグリ東北 仙台	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)　384-5151
㈱クボタアグリ東京 東京	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)　862-1121
㈱クボタアグリ東京 新潟	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)　285-1261
㈱クボタアグリ大阪 金沢	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)　75-1121
㈱クボタアグリ大阪 名古屋	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)　24-5111
㈱クボタアグリ大阪 大阪	大阪市浪速区敷津東１-２-47	〒556-91	電(06)　648-2111
㈱クボタアグリ中四国 米子	米子市米原570	〒683	電(0859)　33-5011
㈱クボタアグリ中四国 岡山	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)　79-4511
㈱クボタアグリ中四国 高松	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)　74-5091
㈱クボタアグリ九州 福岡	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)　606-3161
㈱クボタアグリ九州 熊本	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)　357-6181

久保田鉄工

品番　56341―6131―5